

## No. 44 >>> Contents

- 新会頭就任挨拶  
 ..... 一般財団法人大日本蚕糸会 会頭 小林芳雄 ..... ①
- 提携トピックス  
 伝統と革新の精神で新たな博多織に挑む  
 ..... 福続織物株式会社 専務取締役 丸本 徹 ..... ②
- 国内情報  
 和装振興研究会について  
 ・ ・ 経済産業省製造産業局繊維課 織物・絹業・産地振興担当 加藤 奈津子 ..... ⑥
- シルク遺産を訪ねて<sup>②③</sup>  
 片倉シルク記念館 -倉庫を活用した企業博物館-  
 ..... 東京産業考古学会 副会長 平井 東幸 ..... ⑭
- シルク豆辞典  
 蚕の季節感(その2) ・ ・ 東京農工大学農学部蚕学研究室 准教授 横山 岳 ..... ⑱
- 随 想  
 日本の蚕糸業と群馬のかかわり -或る群馬出身者の感慨- ・ ・ ・ 春川 凡 ..... ⑳
- 一般財団法人大日本蚕糸会から  
 平成 27 年度貞明皇后研究助成採択一覧 (13 件) ..... ㉔
- イベント情報 ..... ㉓
- 提携支援センターから  
 提携支援センター活動日誌 ..... ㉖  
 平成 27 年度第 2 次分の純国産絹マーク使用許諾状況 ..... ㉗  
 純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧 ..... ㉘
- 蚕糸絹関係博物館一覧 ..... ㉙
- 蚕糸絹関係機関ホームページ一覧 ..... ㉚
- 統計資料 (統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。) ..... ㉛



# 新会頭就任挨拶



## 一般財団法人大日本蚕糸会 会頭 小林 芳雄

6月25日に一般財団法人大日本蚕糸会会頭に就任いたしました。研究開発の推進や蚕糸絹文化の振興に関する本会の事業が円滑に運営され、蚕糸・絹業の発展に貢献できるよう努力してまいりたいと考えますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

蚕糸・絹業を取り巻く情勢は、絹製品全体の需要や養蚕農家の減少が続くなど依然として厳しいものがあります。加えて近年の経済社会環境の下では、変化と多様化の著しい消費者ニーズに応えるとともに、流通システムや技術基盤等の維持向上を図り、併せて関係する事業の担い手を確保するなど、諸般の取り組みを有機的・総合的に進めることが求められていると考えます。

一方では、昨年6月の「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録を機に、我が国の蚕糸・絹業に対する一般の関心の高まりが見られます。同製糸場の入場者数が平成25年度の31万4千人余から平成26年度の133万7千人余と大幅に増加し、他の蚕糸・絹業関連施設においても同様の動きがあることは誠に喜ばしいことです。また、現下の重要課題とされる「地方創生」を進めるうえで、蚕糸・絹業のような地域に根差した地場産業の振興にもより重点が置かれるべきでしょう。このような動きを追い風にして、我が国の優れた養蚕・製糸技術の再評価や絹製品の需要開拓に結び付けていければと大いに期待するところであります。

本会では、上記のような問題意識のもと各般の事業を進めております。いわゆる川上・川下の結び付きを高めるための「蚕糸・絹業提携システムの構築事業」は、「純国産絹マーク」の活用促進対策を含めて、基本的かつ戦略的な取り組みといえ、今後更なる展開を目指す必要があります。また、今年度から開始した「新たな繭生産・担い手育成対策」についても、その目的が十分に達成されるよう的確な運用を図ってまいりたいと思います。

今、日本の文化やライフスタイルに対する内外の関心が高まり、衣食住についてもその伝統や価値が見直されているといわれます。これからの時代環境の変化を踏まえながら、特に内外の需要拡大と人（各事業の担い手）の確保に向けて本会の役割が発揮できるように努めてまいりたいと考えます。関係の皆様方のご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

## 伝統と革新の精神で新たな博多織に挑む

### 福続織物株式会社

専務取締役 丸本 徹

#### はじめに

福続織物株式会社は、親会社である博多織産地専門卸売問屋 筑前織物株式会社の製織部門として、昭和39年福岡市西区に設立され、今年で51年目を迎える博多織の織元です。

弊社は主に帯地を製織し、佐賀錦袋帯・袋帯・紋八寸なごや帯・平地八寸なごや帯に加え近年注目されている夏帯の「紹・紗・羅」などのなごや帯・男帯、平成23年に新たに伝統的工艺品に認定された先染め着尺等その種類は多岐にわたります。

また最近では、ホテルなどの内装インテリア用生地やオリジナルドレス地、博多織では初めてとなる博多織発祥の地「承天禅寺」ご住職の袷裯や博多総鎮守

櫛田神社宮司の狩衣、能衣装などの製作も手掛け、グループ会社全体の「伝統と革新」というコンセプトに基づき帯地以外のものにも積極的にチャレンジしています。

弊社は織機30台、手織り機、広幅(1.5m)レピア織機等を有し、意匠から糸繰り・整経・機仕掛け・製織・仕上検査後、帯になるまでの全工程を自社一貫にて行うことができ、高いクオリティを保つ要因になっています。意匠部門・製織部門には4名の伝統工芸士が在籍し、ベテランの織り手さんから博多織の職人になりたいという志を持った多くの若い織り手さんたちと共に、消費者の方に愛される商品づくりに日夜励んでいます。

毎年11月には博多織工業組合主催の博



工場入口



工場内風景

多織求評会が『承天禅寺』で開催されています。産地をあげての新作発表会で、博多織各メーカー織元はこの求評会を目標にして作品作りをします。毎年約 200 点の新作が出品される求評会で、弊社は 10 年連続最高賞「内閣総理大臣賞」を初め数多くの賞を受賞しています。

### 純国産糸への想い

初めに、博多織の歴史について少しお話致します。1241 年鎌倉時代に圓爾辯圓えんにべんえん（通称・聖一国師しょういちこくし）と博多商人満田弥三右衛門みつたやざえもんが宋に 6 年間滞在し、五つの製法を習得して帰国しました。弥三右衛門がそのうちの

ひとつ、織物の技術を家伝家業としたのが博多織の始まりと言われていています。博多織を代表する献上柄けんじょうがらは仏具である独鈷どっこと華皿はなざらを図案化したもので、江戸時代に黒田長政



力織機（小幅 30 台・広幅 2 台）



力織機 せいおび らくみかんどう（盛夏帯・羅組間道）



手織り工房（5 台）



整経機（縦糸準備風景）



意匠部（デザイン室）

が江戸幕府に献上した事から「献上博多織」と呼ばれる様になりました。博多織は先染めの美しい絹織物です。献上に代表されるその特徴は「地組み」にあり、経糸で色柄を表現するところです。細い絹糸を経糸に数多く用い張力を強くし、緯糸は数本引き揃えた太糸を強く打ち込みます。そのため生地に厚みがあり、シャキツとした独特の風合いにより、帯を結ぶ時「キュッキュツ」と博多織独特の「絹鳴り」がします。

このように長い歴史のある博多織ですが、現在の博多織事情に目を移した時、ふとある違和感を感じることがありました。

ある会議の席で、弊社社長より国産糸使用の是非について質問され、納得のいく説明が出来ませんでした。その時に日本を代表する伝統的工芸品なのに、その多くは輸入糸が使われている、という実情にもどかしさを覚え、コストの面だけを捉えて国産糸についてあまり深く考えてないことに気がついたのです。このことをきっかけに、国産糸について情報収集を行い、是が非でも、国産糸で帯を作りたいと思うようになりました。博多織の男帯は結び易く、緩まないと評判であり、まずは純国産糸の男帯を作ろうと思いました。

折しもNHK大河ドラマでは、福岡にゆかりの深い『軍師官兵衛』が放映されていたので、帯の名前は「官兵衛」とし織り方も本袋で表と裏を綴じ付け、伝産マークが取れる規格に合わせた帯にしようと計画しました。製品発表の目標を「博多織求評会」とし、博多織初となる純国産糸使用をスタートさせました。

1. 糸選び／糸の仕入先と検討し、ぐんま200と決定
2. 染色／博多の染色工場は、国産糸を染めた経験が殆どなく、染料、油、練りなどを試行錯誤した結果、輸入糸よりもソフト感のある仕上がりで面の良い染色ができました。
3. 製織／輸入糸と比べてむしろ織りやすく、発色もよく綺麗に織り上がりました。

このようにして出来上がった純国産糸使用の帯はとても結び心地がよく、国産糸ならではの良さを改めて感じる事ができました。その後、別タイプの男帯や手織り平地八寸なごや帯の製織へと種類を広げていきました。

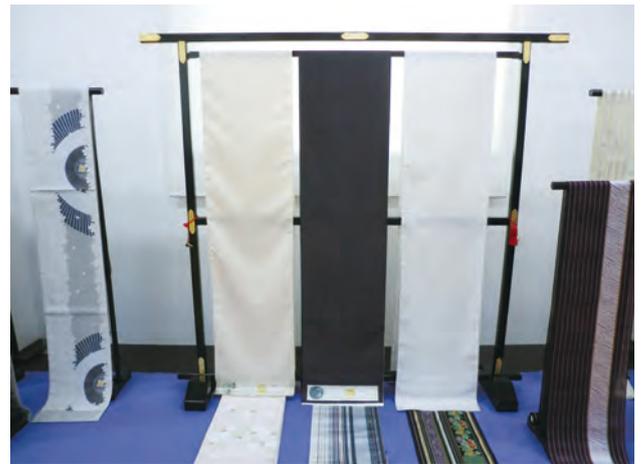
昨今、消費者は履歴のはっきりとした日本製へのこだわりを持つ人も多く、純国産糸でできた帯への関心は高い反面その認知度はまだまだ低く、博多織で織られた純国産糸使用の帯・着物の良さをもっとアピールしていきたいと思います。また、将来的には帯や着物以外にも取り組み、付加価値の高い品作りをしていきたいと思います。



展示場（見学会や研修会に使用）



袋帯・大身槍日本号（前列中央）



博多織着尺

### 博多産地としての後継者問題

博多織の産地規模は西陣織の1割程度で、産地問屋もピーク時の10社が1社となり、メーカーもピーク時の200社程度から今では組合員（個人も含む）50社を切る状態です。他産地と同様に後継者不足は深刻です。

そこで平成18年に10年間限定のNPO法人「博多織デベロップメントカレッジ」（博多織技能開発養成学校）を開校し、10年で約100名の博多織業界を支える人材育成を目指し本格的に後継者の育成に力を入れ始めました。学長には博多織唯一の重要無形文化財技術保持者（人間国宝）小川規三郎（おがわ・きさぶろう）氏が就任致しました。目的は、博多の文化を学び、伝統の技能を修得し自らを研鑽し広く世界に飛躍できる人材を育成することです。弊社も今までに卒業生を5名採用し即戦力になっております。

### 歌舞伎との知られざるエピソード

最後に、博多織と歌舞伎との知られざるエピソードをご紹介します。今から200

年前、なかなか江戸で売れなかった博多織を、七代目市川團十郎が博多の商人に頼まれ舞台上で「この博多織は唐糸だから誠に強くて、いつまでしても切れる事がねえ」と口上をのべてもらい江戸中の評判となり、よく売れるようになったという逸話があります。この200年前のエピソードを記念して、博多織工業組合では当時の文献を参考に衣装を博多織で5点復元して十二代目團十郎の長男市川海老蔵様に平成27年4月に寄贈致しました。この5点のうちきもの1点は弊社が担当させて頂きました。

今後は、この歴史ある博多織の技術を進化発展させると共に、長く継続的に純国産糸使用の博多織製品の開発に励みたいと思います。

■丸本徹（まるもと・とおる）のプロフィール  
福続織物株式会社専務取締役  
博多織工業組合副理事長  
〒819-0381 福岡市西区泉 1-18-4  
TEL：092-806-1223、FAX：092-806-5036  
HP：http://fukkouorimono.co.jp  
純国産絹マーク表示者登録番号：162

## 和装振興研究会について

経済産業省製造産業局繊維課

織物・絹業・産地振興担当 加藤 奈津子

ライフスタイルの変化等により、きものは日常着として着用されなくなり、きもの出荷額は減少が続いています。しかし、近年「和女子」といった「和モノ」に興味をもつ女性を総称する言葉が生まれるなど、きものを含む「和モノ」に興味をもつ若い女性が増えつつあります。

経済産業省では、若い世代のきものへの関心の高まり等をふまえ、新たな需要の開拓に向けて新たなビジネスモデルを構築し、きもの産業の好循環を創造するため、本年1月30日に有識者、若手経営者及びユーザーから構成される「和装振興研究会

(製造産業局長主催の研究会)」を設置しました。和装振興研究会は、①きもの産業のビジネスのあり方、②きものを活用して日本や地域の魅力向上に繋げていくための方策等について検討を行い、6月16日の第5回会合にて、報告書を取りまとめました。

### 1 和装振興研究会報告書概要

#### (1) 業界、消費者の現状について

きもの出荷金額のピークは昭和50年代といわれ、1.8兆円の規模がありましたが、平成25年には3,000億円規模(ピーク時の1/6)まで減少しています(図1)。

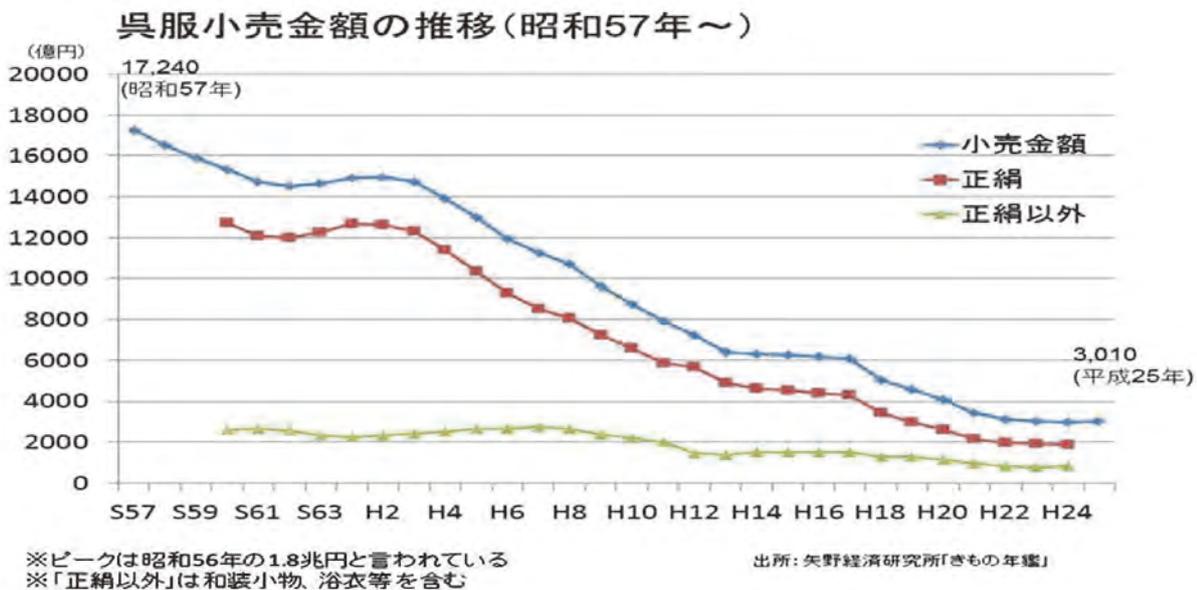


図1 呉服小売金額の推移

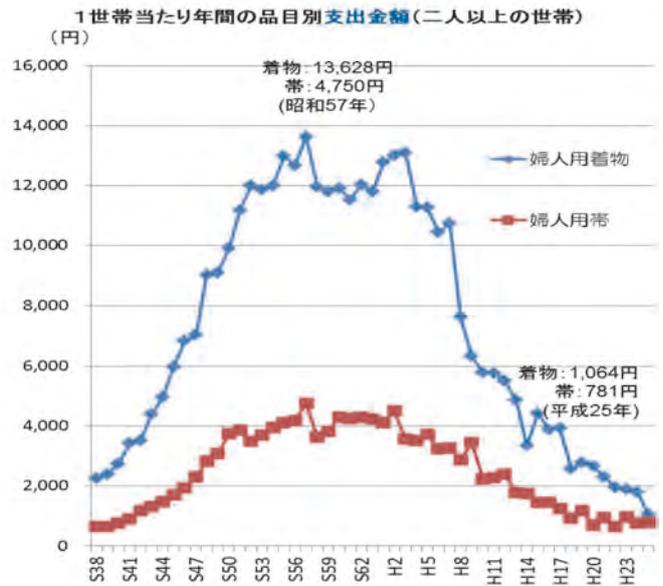


図2 1世帯当たり年間の品目別購入数量及び支出金額

また、きもの産業を支える産地では企業数、生産量が大幅に減少し、地域経済に影響を与えています。消費側を見てみると、きもの・帯の年間購入数量は昭和40年代でピークを迎え、その後減少しています。

一方、年間支出金額は昭和57年まで増加し、その後減少しています。昭和50年代に商品の高付加価値化が進み、その後バブル崩壊などを背景に、数量のみならず購入金額も急激に減少したことがうかがえます(図2)。

さて、現代の消費者は、きものをどのよ

うにとらえているのでしょうか。今後のきもの市場開拓に活用するため、経済産業省では平成27年3月に、消費者に対するきものアンケート調査を実施しました。調査によると、20代以上の女性の8割以上は、これまでにきものを着たことがあります。今後の着用意向を聞いたところ、着用経験者・未経験者のいずれについても、20～30代の若い世代が高く、若い世代がきものに興味を持っていることが分かりました(図3)。

また、着用経験者の8割以上は「儀式・

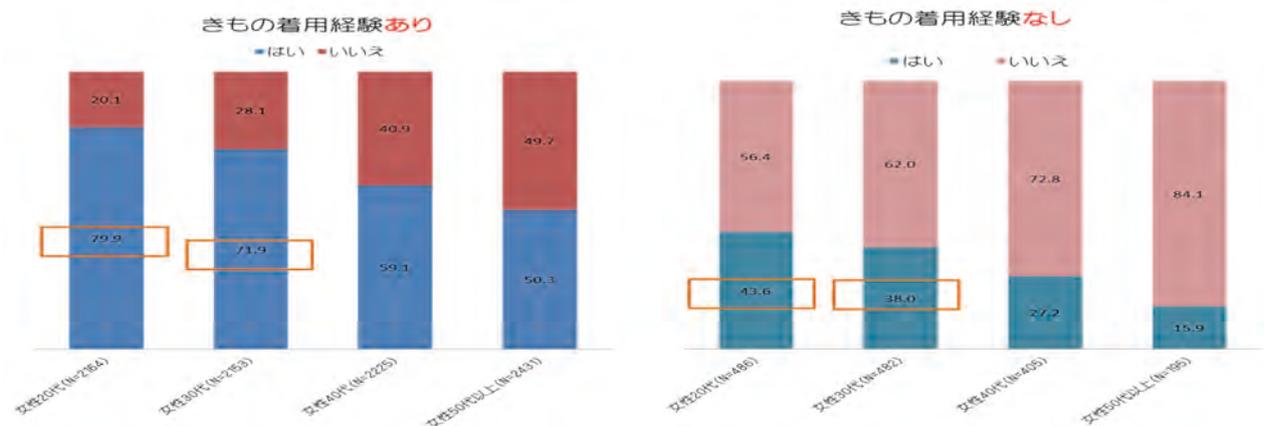


図3 今後のきものの着用意向について

冠婚葬祭」で着たとの回答でしたが、20～40代女性の今後の着用意向者は、きものを着たいシーンとして、「自分磨きのファッションとして（デート、女子会）」、「パーティへの参加」と答えた人が多くいました（儀式・冠婚葬祭以外）。従来のような「ハレ着」以外で着てみたいと考える若い女性が多く存在することが分かります。

一方、きものへの関心はあるものの、価格が高い、わかりにくい、商品価値に合った価格設定になっているのかわからない等の価格の問題が壁となっています。今後きものを購入する場合の価格については、世代に関わらず着用意向者の約5割が10万円以下であれば購入すると回答し、20代の36.9%がレンタルで調達すると回答しています。20～30代の若い世代では、購入する場合、5万円以下で買いたいという人が最も多くいます（20代:32%、30代:28.8%）。一方、過去に実際に買ったきものの価格については、最も多いのが「10万円超～30万円以下」となっていることから、きもの主な価格帯と、自ら購入したいと考える消費者のニーズにずれが生じていることがうかがえます（図4、5）。

売側がリーズナブルな価格の商品を提案し、買いたいと思う人の市場へのアクセシビリティを向上させることが、潜在市場拡大の重要なポイントといえます。

## （2）論点1 きもの新規需要開拓のためには何が必要か

### ア 市場縮小のスパイラルの解消

20～30代の若い女性達の多くはきものに興味を持っていますが、彼女たちにとってきものの価格は高く、買うことを断念してしまいます。買う人が減ると、「着る人が減少」する。着る人が減ると、きものを着てかっこよく歩いている人を見る機会が減るため、素敵だとかかっこいいと思うスタイル（着こなし）が分からない。着こなしが分からないと着ようとしなない。着ないので、自分で着られない。自分で着られないから着る人がさらに減る。このように、きものを着なくなる悪循環が起きています。

一方、産業側の視点で見ると、着る人側の負の連鎖により「着る人が減少」するので、買う人が減り、売上高が減少（総資本回転率が低下）。市場規模の縮小に合わせ、

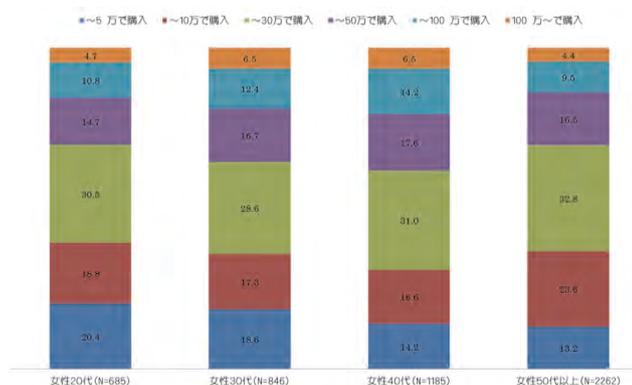


図4 実際に入力されたきものの価格帯

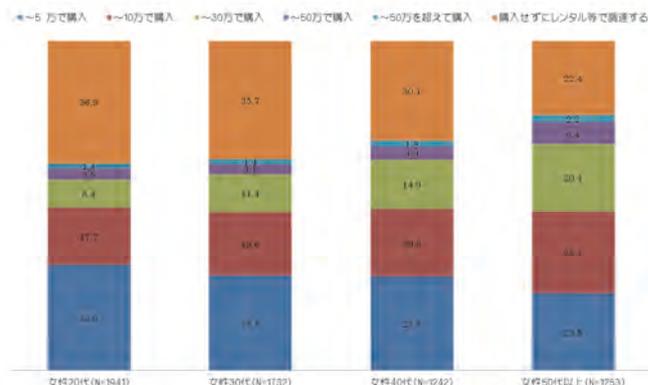


図5 きものを購入する場合の価格は？

(利益率の高い) 高級品への偏重や在庫リスク拡大により、きもの価格が更に上昇。価格が上昇するので消費者はますます買わなくなり、着る人が減って市場規模が縮小するといった「市場縮小のスパイラル」に陥っています(図6)。

市場縮小のスパイラルを解消するために

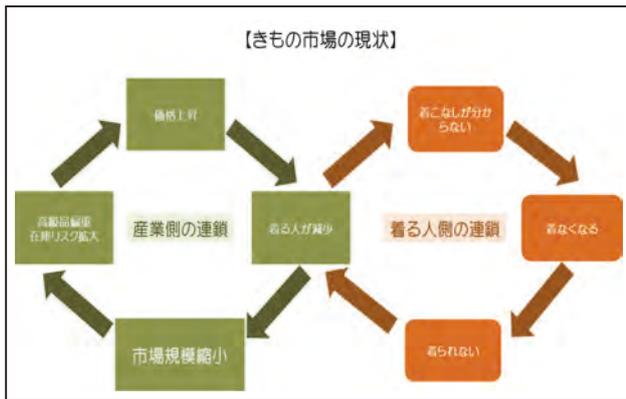


図6 きもの市場の現状

は、着る人側、産業側の課題を解消することが必要です。

「価格が高い」という壁には、リーズナブルな価格の商品やファッション・日常着として楽しめるきもの提供が求められま

す。「着こなしがわからない」という壁にはおしゃれなスタイルの提案、「着られない」という壁にはリーズナブルな着付け教室の提案やネットでの着方の情報発信、「着ていくところがない」という壁にはきものを着て参加出来るイベントやきもの特典等の提供などが、解決策として挙げられます。

購入や着用に関する壁を解消して潜在市場(ファッション・日常着としての市場)を開拓し、きもの裾野を広げることができれば、新たな需要を生み出し、ハレ着のマーケットに対しても好循環を与えるでしょう。裾野を広げることが、きもの市場全体の成長に寄与していくと考えられます(図7)。

### イ 新規需要開拓への取組

事業者の中には、潜在市場のターゲットへの取組・提案を行っているところがあります。例えば、株式会社三才の齊藤上太郎氏(きものデザイナー)は、ファッション

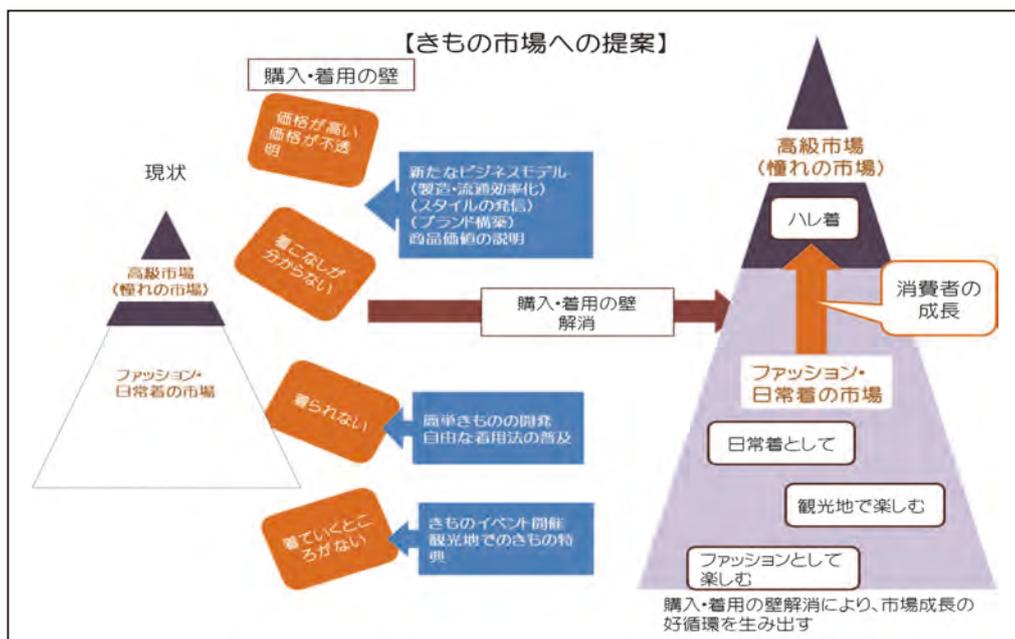


図7 きもの市場への提案



写真1 きものサローネ in 日本橋

ショーを通じて、消費者の憧れとなる「リアリティのあるキモノスタイル」の発信をしています。ネットショップのモダン着物小物、梅屋の梅原麻里氏は、産地の職人の丁寧な手仕事によるオリジナル商品を展開し、エシカル（ethical、環境保全や社会貢献）かつファッションとして楽しめるきもの提案をしています。

きものを着る人を増やす取組、きものを着るシーンづくりに関する取組としては、民間の関係者が集まり、「きものサローネ in 日本橋」を開催しています。全国の作り手・卸・小売など和装業界関係者が一堂に会するイベントであり、各社出展ブース、ファッションショー、きものにまつわるトークショー、企画展示、伝統工芸の体験など、消費者があらゆる面からきものに触れ



写真2 きものサローネ in 日本橋

ることができる、年に一度の一大イベントとなっています（写真1、2）。

### （3）論点2 地方創生に向けて、地域資源としてのきもの活用策を考える

#### ア きもの異業種での活用について

きもの生地・染め・文様などは、我が国が誇る産業資源であり、きもの以外の異業種商品においても付加価値を高める強力なツールとなり得るものです。実際に、先進的に洋装やインテリア等の異業種分野へ活用する取組が進んでいます。

株式会社富田染工芸は、東京染め小紋しにせの老舗ですが、百貨店と共同で東京染小紋・江戸更紗さらきの技術を活かしたストール等を開発・販売しています。また、京都の株式会社細尾は、西陣織の技術、デザインを活かして、革新的なファブリック（布地）開発に挑んでいます。著名なデザイナー等とのコラボレーションを通じて、インテリア、ファッション、家具など様々な分野のラグジュアリー（ぜいたく品）マーケットに展開し、国内外で高い評価を得ています。

#### イ きものを活用した地域振興への取組

について

きものを支える産地には、独特の染・織技術、素材、そしてそれにまつわる歴史が育まれています。これらは、商品開発における差別化のための重要なツールとなります。産地の強みを活かしつつ、変化の激しい消費者のニーズに柔軟に<sup>こた</sup>えていくことが、市場開拓ひいては、産地の活性化に繋がっていくものと考えられます。

潜在市場開拓には、産地のものづくりの現場における消費者ニーズの把握や地域ブランドの確立が不可欠であり、イベントや産品販売等を通じて、産地において消費者ニーズに柔軟に<sup>こた</sup>えていこうとする取組も各地で行われています。

また、産地以外の地域でも、観光地域づくりにきものを活用しているところがあります。旅行者のニーズが多様化する中、日本を感じることでできるきものを魅力的な地域資源と組み合わせ、体験型のプログラムを提供することが、魅力ある観光地域づくりに繋がります。

#### (4) 和装振興研究会提言について

議論をふまえ、和装振興研究会は、以下

のとおり、和装振興に対する提言をまとめました（図8）。

（提言1）潜在市場開拓のための新たなビジネスモデル構築を促進すべきではないか

若い世代の多くがきものに興味を持っていることが分かりましたが、この動きは縮小し続けるきもの市場の潜在需要に繋がる可能性があります。「明確なターゲティング」、「合理的な価格の提示」、「ブランドの確立」、「変化の激しいニーズを迅速にとらえた商品展開」等の従来とは異なる新しいアプローチを推進していくことが必要です。潜在市場をビジネスチャンスととらえ、市場開拓に取り組んでいくことが、きもの市場全体の成長に繋がるものと考えられます。

#### 〈具体的取組〉

- きもの入門層へ向けたリーズナブルで良質な商品開発
- 変化の激しい消費者ニーズに柔軟に対応して迅速に商品を提供するための製造・流通システムの効率化
- 消費者の心に響くブランドの構築及びスタイルの提案（アパレルのような個別

#### 提言1 潜在市場開拓のためのビジネスモデルの構築を促進すべきではないか

- 潜在市場開拓に向けたビジネスモデル構築の推進

#### 提言2 きものを着るシーンを増やすべきではないか

- 業界、自治体、学校等の連携による「シーン」の創出→「経済産業省きもの日イベント」

#### 提言3 きものを活用した地域振興をもっと進めるべきではないか

- 地域産品開発の推進

#### 提言4 国内外へ「きもの」を発信して日本の魅力を向上すべきではないか

- ミラノ国際博覧会、2020(平成32)年東京オリンピック・パラリンピック競技大会での情報発信

図8 和装振興研究会の提言（まとめ）

の生産者としてのブランドの構築、おしゃれ着としてのスタイルの提案)

- 新しいビジネスモデル推進のための成功パターン等の情報共有（ニーズ調査、試験販売をすることも一案）

(提言2) きものを着るシーンを増やすべきではないか

きものを着るシーンづくりや、きものを知ってもらうための普及・教育が必要ではないかという問題意識が挙げられました。

〈具体的取組〉

- 政府において、きものを着て執務ができる「きもの日」を設定するとともに、きものに関する和文化を学ぶセミナーや和文化体験イベントを開催してはどうか。
- 学校教育の中で、着付け等、きものについて学ぶ授業を行ってはどうか。

(提言3) きものを活用した地域振興をもっと進めるべきではないか

地域には、自然、歴史、産品、魅力ある町並みなど、そこで生まれた独特の資源があり、それらは観光地域づくりの魅力的なツールになります。きものは、日本を感じることができる資源であり、また、体験プログラムにも活用できます。

〈具体的取組〉

- 各地でのきものイベントの開催
- 「京都きもの特区」の実現
- 地域産品開発の推進（地産地消）

(提言4) 国内外へ「きもの」を発信して

日本の魅力を向上すべきではないか

きものは海外でも注目されています。これをチャンスととらえ、きものを国内外に発信することが、インバウンド（inbound、訪日外国人旅行）振興にも繋がるのではないのでしょうか。また、「きもの」が確立した江戸時代で発達した文様の遊びを理解して、「きもの」の本質を国内で共有することが重要ではないのでしょうか。

〈具体的取組〉

- ミラノ国際博覧会における発信  
2015（平成27）年5月1日より開催されているミラノ国際博覧会においては、既にきものを活用した発信を行っています。貴賓室には委員所有の色打掛を展示し、海外のお客様へ日本文化を発信しています（写真3）。7月11日のジャパンデーでは、パレードに世界各国をモチーフとしたきも



写真3 ミラノ博貴賓室展示のきもの  
（色打掛 『大牡丹印金錦』三代目 龍村平蔵）



写真4 ミラノ博ジャパンデーのパレード

の（一般社団法人イマジン・ワンワールドの「着物プロジェクト」による、職人と制作を進めているきもの）を着たミスジャポンが参加し、日本文化をPRしました（写真4）。

また、日本館のレストランでは、帝人株式会社が仲居さんへ高品質かつイージーケアな和服一式を提供し、日本のおもてなしを表現しています。

- 東京オリンピック・パラリンピック競技大会における発信
- きもの版ベストドレッサー賞の開催、江戸ファッションショーの開催、きもの博物館設置等による魅力発信

## 2 今後の和装振興の取組について

経済産業省では、報告書でまとめられた提言をもとに、和装振興に向けた取組を実施していきたいと考えています。

民間においては、例えば、日本橋地区の銀行や旅行社の方が、「七夕ゆかたまつり」

の日に浴衣<sup>ゆかた</sup>で勤務をしています。こうした流れを受け、政府においても、まずは経済産業省において「きもの日イベント」の取組を進めていきたいと考えております。官民が行う、和装に関するイベントを集中させ、職員がきもので執務することも含め、国内外にきもの魅力を効果的に情報発信してはどうかと考えています。

2020（平成32）年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。2020（平成32）年に向けて、国内外の「和」に対する関心がさらに高まることが予想されます。今こそ官民が一体となり、和装振興に向けた取組を行っていくことが重要であると考えておりますので、業界関係者の皆様と連携して、取組を継続していきたいと思ひます。

### ■和装振興研究会報告書

[http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/wasou\\_shinkou/pdf/report01\\_01\\_00.pdf](http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/wasou_shinkou/pdf/report01_01_00.pdf)

シルク遺産を訪ねて②③

## 片倉シルク記念館

— 倉庫を活用した企業博物館 —

東京産業考古学会

副会長 平井 東幸

### はじめに

片倉シルク記念館（以下「記念館」という。）は、片倉工業株式会社が平成6（1994）年に同社最後の製糸工場を閉鎖したことから、その繭倉庫の一部を利用して工場敷地内に記念館を同12（2000）年に開設したものである。同19（2007）年には経産省の近代化産業遺産に認定されている。同社の製糸業は121年に及んだが、そのシルク関連産業遺産としては、周知のように世界遺産で国宝の富岡製糸場（群馬県富岡市）があり、片倉工業はその最後のオーナーを務めた。

このほかに、同社ゆかりの遺産としては、長野県諏訪市に重要文化財の片倉館等、長野県岡谷市の蚕糸博物館、片倉事務所、初代片倉生家等がある。

### 片倉シルク記念館の概要

記念館は、蔵造り倉庫と蜂の巣倉庫の2棟から構成されている。ともに旧繭倉庫で、木造2階建て、前者は床面積661㎡、後者は668㎡と大規模である（写真1）。

前者は明治32（1899）年に建設された繭貯蔵倉庫であった。記念館とするため工場構内で曳家したもの（敷地面積は10,457坪、現在はその多くがイオン熊谷店が使

用している）。後者は福島県の製糸工場（昭和11（1936）年建設）を昭和40（1965）年に、ここ熊谷工場に移設したもので、内部には繭を貯蔵する縦穴が105個もあることから、「蜂の巣倉庫（はちのすそうこ）」と名付けられた珍しい構造の木造建物。「一つの穴に、乾繭15kg入りの繭袋が80本、計1200kg、全体で、8,400本、全部で約126トンの繭がバラ貯蔵」できた。使用する際には、穴の下蓋を開けて取り出した。「先入れ先出し法」であり、繭の保管管理に最適であった。この種の倉庫としては現在国内では極めて珍しいとみられているだけに、貴重なシルク遺産である。これらの建造物は往時の製糸業の繁栄を偲ばせるものであり、文化財としての価値が高い（写真2）。



写真1 片倉シルク記念館外観



写真2 <sup>はちす</sup> 蜂の巣倉庫内展示

## 展示品の概要

展示についてみると、蔵造り倉庫では、製糸の製造工程が、機械を初め解説パネル、写真等を使い、分かりやすく展示されている。建物内部では木造の力強い小屋組みが見られるし、また、2階への繭を運搬する木造の昇降機も保存されており、非常に興味深い。

機械は主なものだけで次表の通りで、1階には重量のある大きな機械類が、2階には比較的小型の機械器具が、生糸検査機器を含めて工程順に展示されている。

### 表 主な展示機器類

<1階> 選繭機（半木製）、増澤式煮繭機（新增澤工業）、同制御器、日産自動繰糸機（日産自動車繊維機械部）、HR自動繰糸機制御盤、小枠湿機

<2階> 御法川式多条繰糸機、セリプレーン巻取機（ハマ精機製作所、横浜市中区）、ポビン巻取機、検位衡、検尺器、水分検査機（本間鉄工所、昭和42（1967）年）、括造り機（新增澤工業（株）昭和41（1966）年）、糸捻器（半木製）、揚返機（半木製）

同館の史料所蔵数は、このほか、工場開業以来の書類、絵画、写真、金庫等を含めて、数万点とのこと。是非、収蔵目録が欲しいところである。

主要な展示品としては、次のようなものがある。

① 2階の御法川式多条繰糸機（みのりかわしき・たじょうそうしき）（写真3）が貴重。同工場の生産停止時まで実際に使用されていたもの。このタイプの繰糸機は昭和6年に同社では一挙に500台導入された由。

② 1階入り口正面に展示されている大型の金庫には「UCHIDA 東京、馬喰（ばくろう）町」の銘板があり、また、正面には「片倉製絲紡績株式會社」の記載があり、同工場の歴史を物語っている。

③ 1階奥の日産自動繰糸機も最後まで使用されていた機械（写真4）。片倉工業は、昭和20年代から、御法川式をベースにK1からK8までの自動繰糸機を開発した。日産のこの機種もその延長線上にある。



みのりかわしきたじょうそうしき  
写真3 御法川式多条繰糸機



写真4 日産製K8型自動繰糸機

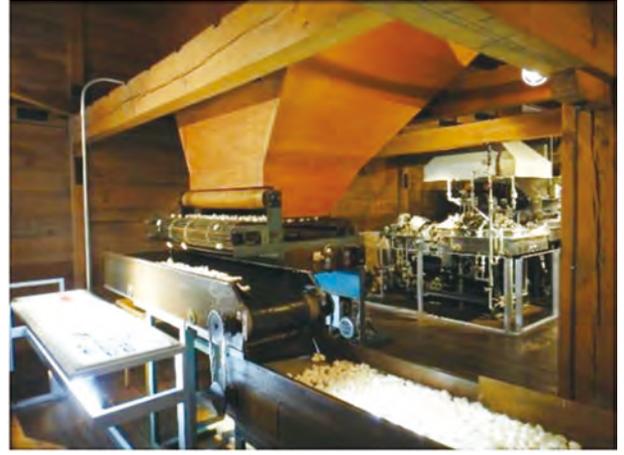


写真5 選繭装置



写真6 煮繭機



写真7 繰糸機の索緒機

④ 2階には検査機器が充実していて、品質管理の要諦であるだけに、興味深い。

⑤ 映像資料としては、「岡谷から熊谷まで——もう一つのシルクロード」(2000(平成12)年制作、12分)が常時上映されている。



写真8 セリプレ板とセリプレーン巻取機

なお、蜂の巣倉庫は、その建物自体が貴重であることは前述したが、1階には、養蚕関係の史料が、「埼玉県所蔵蚕糸関係歴史資料」として多数展示されている。例えば、島田式製簇器、足踏式収繭機、桑水切器、控桑機、棚挿式稚蚕飼育装置などは木製、半木製の器械であり、今となっては珍しい。おおむね昭和40(1965)年代に収集したもの。県の基幹産業として活況を極めた養蚕の民俗資料としての価値もある。

---

---

## 結び

ここで、同社のこれら産業遺産の保存についてみると、同社はわが国で、もっとも文化財の保存と展示に熱心な企業の一つである。現在、上記の片倉シルク記念館のほか、重文の片倉館、旧片倉事務所、旧片倉組別邸等があり、とりわけ、平成 26 (2014) 年の富岡製糸場の世界遺産登録と、その後の国宝指定は、長年にわたる努力の成果の頂点であろう。「売らない、貸さない、壊さない」という方針がまさに結実したものと、まことに慶賀に堪えない。因みに、同社は、文化財保護に貢献したとして、平成 26 (2014) 年度の文化庁長官表彰を受けた。

取材しての感想と希望であるが、製糸事業撤退後も繭倉庫 2 棟を記念館として運営されていることに敬意を表したい。希望としては、建物を含めて収蔵史料には貴重なものが多数あり、これらは市ないし県の文化財指定を是非検討して頂きたいと思う。また、一部でもよいので動態展示が可能な

いものか、機械の不断の管理が必要になるが…。

最後に、この取材で、インタビューにも快く応じて下さり、写真を含めて各種資料の提供も頂いた同社広報 I R 室の上村氏及び同館の垣塚氏に感謝申し上げる。

(写真は全て片倉工業株式会社提供)

- 名 称：片倉シルク記念館
- 所在地：〒 360-0815  
埼玉県熊谷市本石 2-135
- アクセス：J R 高崎線熊谷駅下車、徒歩 15 分 (駅北西の「イオン熊谷店」の北側)、秩父鉄道上熊谷駅下車、徒歩 7 分
- 開館時間：10 時～ 17 時  
(入館は 16 時 30 分まで)
- 休館日：月曜日・火曜日、年末年始とお盆期間、他に臨時休館日あり。
- 入館料：無料
- 問合せ先：048-522-4316

## 蚕の季節感（その2）

東京農工大学農学部蚕学研究室

准教授 横山 岳

「暑さ寒さも彼岸まで」とはいえ、最近の猛暑、残暑は厳しい。この数年「東南アジアより東京の方が暑い。夜が暑い。」と出張から帰国した同僚達がゲンナリしている。こちらはその暑い東京にずーっといるのだが。53歳の筆者の子供の頃はこんなに暑かっただろうか？子供の頃はエアコンもなく、一家に一台の扇風機しか無かった。図1は気象庁の記録で都内の過去約50年の8月の最高気温と最低気温である。35℃を越える猛暑日は昔からあったようだ。よく扇風機だけで乗り切れたものだ。

初秋蚕や晩秋蚕はこの暑い8月、9月に飼育される。暑いのがエアコンの電気代は高

く、飼育費が赤字になるため冷房を使うことはない。換気扇や扇風機で飼育室の温度を下げるのみである。研究室にプロペラ幅が20cmの小さな扇風機がある（図2）。裏には「東芝扇風機（養蚕用）MGK-202」と書かれている。製造メーカーに問い合わせてみたところ、昭和30年代のものらしいが古すぎて詳細がわからないとのこと。図3は人力で回す養蚕用の扇風機である。電気の扇風機が普及する前は人力で換気、送風していたようである。これもまた詳細が不明である。どなたかご存知の方は教えてください。

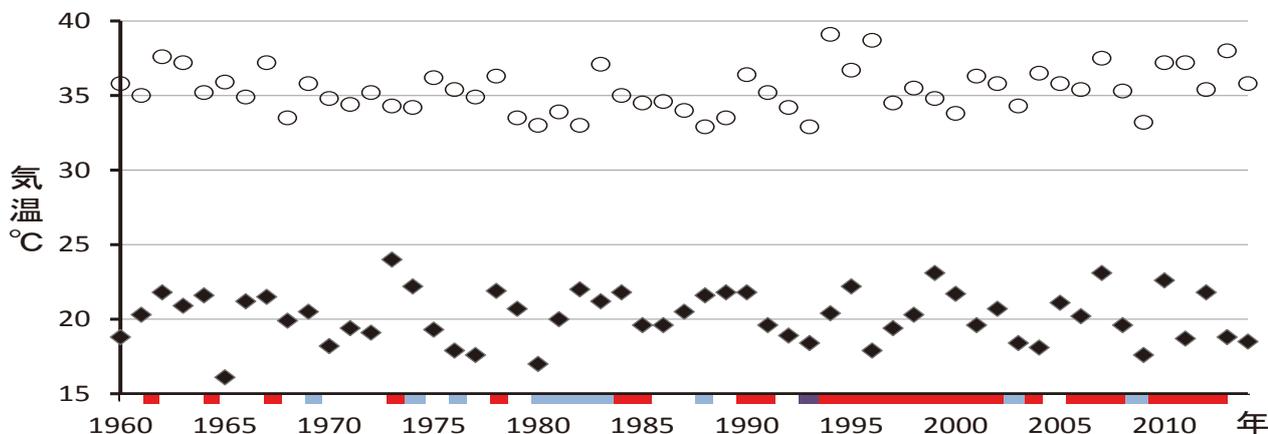


図1 8月の気温

○：最高温度，◆：最低温度赤色：猛暑年，水色：冷夏，紫色：記録的な冷夏（1993（平成5）年）

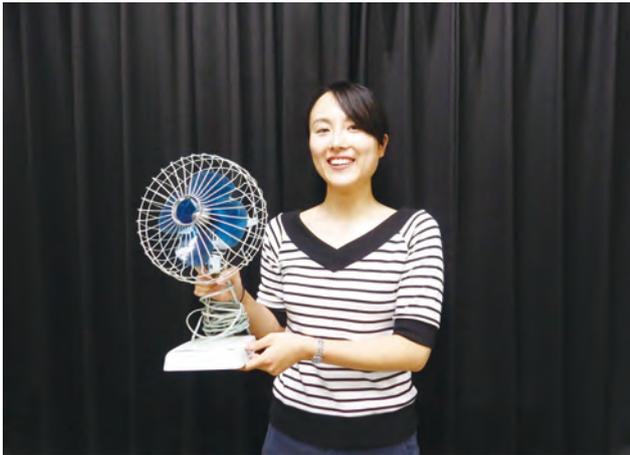


図2 養蚕用扇風機

内閣府の消費動向調査の結果によるとエアコンは1970（昭和45）年代から普及し始めて、1980（昭和55）年代に半数の家庭に、1990（平成2）年代半ばに80%以上の家庭に普及したようだ。筆者が農工大の研究室に入った頃（1983（昭和58）年）、居室にエアコンは無かったが、「人間よりお蚕様」ということで蚕室は冷暖房が完備されており、暑い時は飼育室に籠って過ごしていた。

研究室で筆者は須貝悦治教授<sup>すがいえつじ</sup>に師事した。須貝先生は蚕の生殖が専門で、特に精子の研究を行っていた。人は毎日精子を作っているが、蚕は終齢幼虫から蛹初期に生殖細胞が変態して精子が形成される。生き物は精子を1種類しか作らないが、昔からチョウ、蛾とタニシだけは極端に形が異なる2種類の精子を作る事が知られていた。ちなみに、漫画家の手塚治虫<sup>てつかおさむ</sup>は医師免許を持っており、さらにタニシの精子を用いて「異型精子TV細胞における膜構造の電子顕微鏡的研究」で1961（昭和36）年に医学博士号を取得している。この頃すでに鉄腕



図3 人力扇風機

アトムを描いていた売れっ子漫画家だったはずだが、よく研究する時間があったものだ。

話を須貝先生の研究に戻して、蚕は一般的な形態をしている精子（有核精子）と核が先端になく中央部にある精子（無核精子）の2種類を作る。図4は幼虫の精巢を薄切りして観察したものである（薄切りなので精子が全部見えているわけではない）。黄色矢印に示したのが有核精子で、赤色矢印で示したのが無核精子である。図5は雌体内に射精された精子をスライドガラスに載せて観察したもので、有核精子は256本の束のまま射精されている。この蚕の精子の長さは600～700 $\mu\text{m}$ で、ヒトの精子（60 $\mu\text{m}$ ）に比べると10倍位の長さがある。ちなみに実験動物のキイロショウジョウバエは自分の大きさと同じ位の2mmの精子を作る。D. bifurcaというショウジョウバエの精子はなんと6cmもあり、体長の20倍もの長さの精子を作る。何故ショウジョウバエは長い精子を作るのかは謎である。

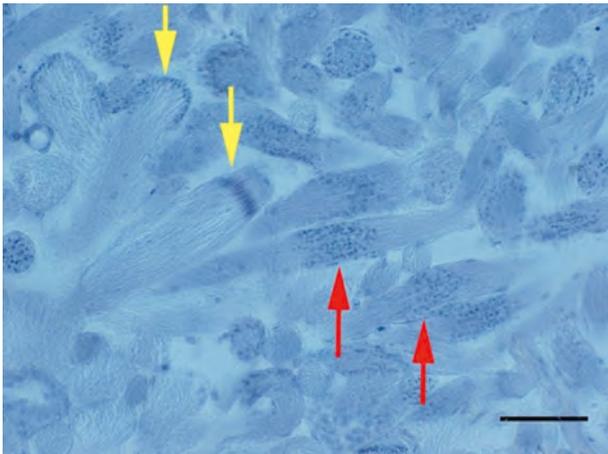


図4 精巣内の精子

精子は256本が束になって作られる。青黒く染まった所が核。

赤矢印：無核精子の核（先端部がない）

黄矢印：有核精子の核（精子の先端部にある）

黒棒= 0.05mm

蚕の有核精子は卵に侵入するが、無核精子は卵に侵入しない。しかし、2種類の精子が雌蛾に受精されないと精子は卵に侵入できない。TVなどで哺乳類の精子がうようよと泳いでいるのを時々観るが、蚕の有核精子は動かない。雄蛾の体内でも、受精され雌蛾の体内に入っても有核精子は動かない。実験実習で精子を観察しているが、動いていないので観察は簡単だがあまり面白くない。しかし、動かないのにどうやって卵に侵入しているのか不思議である。ところが卵に侵入しない無核精子はよく動く。動いて精液をかき混ぜることによって有核精子に受精する能力がつくらしい。

蚕は幼虫の終齢に一気に150～200万の有核精子を作り、それよりやや遅れて無核精子を作る。ヒトは毎日数億の精子を作るのに比べると随分少ないが、一頭の雌蛾は数百粒の卵しか作らないので十分な数である。上簇期の蚕を32℃で3日保護する



図5 雌体内に射精された精子  
256本の束になった有核精子。

と無核精子が形成されず、不妊の雄になることを須貝先生は見出された。成人男性が高熱を数日出すと不妊になることがあるように、高温は人も蚕も精子にとって良くないようだ。

蚕の雄は32℃で不妊になるが、これ位の温度は実験的に温度を上げなくても図1に示したように夏になればごく普通の気温である。にもかかわらず、夏の蚕の雄蛾が100%不妊になることはない。何故か？32℃は夏では普通の気温であるが、それが3日も連続して続くことはない。32℃と25℃を組み合わせる実験の結果、32℃が1日のうち20時間以上続くと不妊化した。このことから夏の蚕が不妊にならないのは、日本は熱帯夜でも32℃を超えることはまずないからだろうと須貝先生は述べていた。しかし、近年温暖化のためか、気温が上がっている。図6は8月の日々の最低温度の平均と最低温度の最も高かった温度を示している。上下はあるものの、年とともに徐々に最低温度が上昇している傾

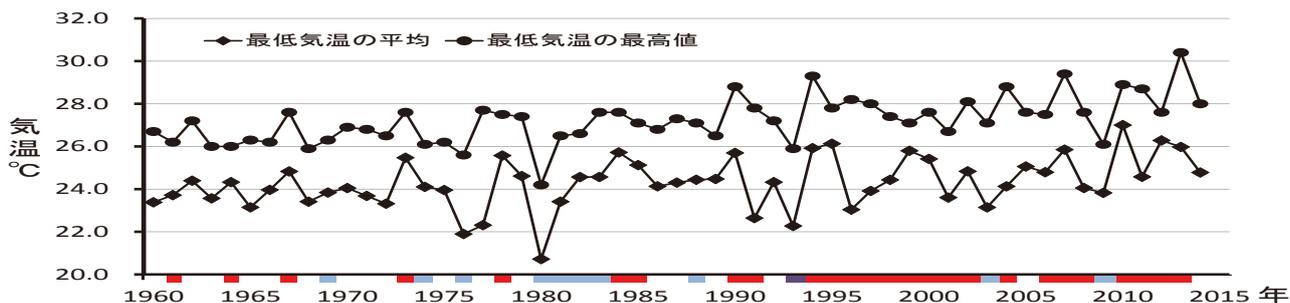


図6 8月の最低温度

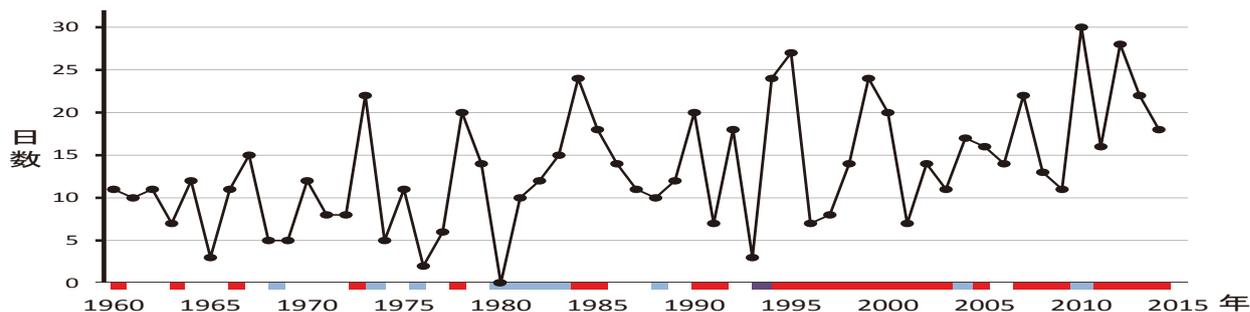


図7 8月の熱帯夜の日数

向がある。有り難くない右肩上がりである。2013（平成25）年8月11日の最高気温は38.3℃、最低気温は30.4℃もあり、なんと一日中30℃を越えていた。こんな一日の最低温度が30℃を越えた日はこれまで日本で6回あったらしい。全て2000（平成12）年以降である。やはり年々暑くなっているのだろうか。熱帯夜の日数も1993（平成5）年の記録的冷夏の後、冷夏と言われる夏でも徐々に増える傾向にある（図7）。2010（平成22）年8月は31日のうち30日が熱帯夜であった。そのうちエアコンを入れずに蚕を飼育していると、須貝先生の研究のとおり雄蚕が不妊になる日がやってくるかもしれない。もっともその前に人が参ってしまうだろうが。

近年の夏の暑さと繭質については気になるところである。第61回日本シルク学会研究会（2014（平成26））にて、群馬県

繭品質評価協議会の小島桂吾氏が猛暑であった2010（平成22）～2013（平成25）年の群馬県の繭質について口頭発表されている。養蚕農家、繭生産量は4年間で半減しているが、優良繭の生産量の減少は緩やかであり、全体の3～4割で維持されている。優良繭を生産している農家では秋蚕の掃き立てを遅らせることや初冬蚕期に飼育することによって、夏の猛暑や残暑に対応していることを報告している。養蚕農家はすでに夏の暑さに対応済みのようである。

■横山 岳（ヨコヤマ・タケシ）のプロフィール  
 東京農工大学農学部  
 生物生産学科蚕学研究室  
 〒183-8509：東京都府中市幸町3-5-8  
 TEL：042-367-5681  
 E-mail：ty.kaiko@cc.tuat.ac.jp  
 HP：http://www.tuat.ac.jp/~kaiko

## 日本の蚕糸業と群馬のかかわり

—或る群馬出身者の感慨—

春 川 凡

### 戦前の繭生産における群馬の地位

「繭と生糸は日本一」

これは群馬県人にとっては言わずと知れた上毛かるたの「ま」の読み札である。群馬県出身の筆者は、群馬県には世界文化遺産になった富岡製糸場があるし、育った高崎市街の周辺は、田んぼでなければ桑畑だったため、明治時代から日本一の蚕糸県であったと思い込んでいた。しかし、群馬県が日本一になったのは、戦後のことで、それまでは終始一貫、長野県が日本一の蚕糸県だったのである。数字で確認してみよう。

収繭量の統計を取り始めた明治19(1886)年の数値をみると(以下農林水産省「繭生産累年統計」による。)、全国合計で、4万1,716トン、群馬県は4,685トンでそのシェアは11.2%であった。一方長野県は、6,995トンで、全国第1位、そのシェアは、16.8%であった。日本が世界一の生糸輸出国となった明治42(1909)年をみると、全国合計で、13万6,112トン、群馬県は1万109トンでそのシェアは7.4%に低下した。一方長野県は、2万314トンで第1位であったが、そのシェアは、14.9%に低下した。さらに、戦前において最高の収繭

量を記録した昭和5(1930)年についてみると、全国合計で、39万9,092トン、群馬県は2万5,329トンでそのシェアはさらに低下し、6.3%となった。一方長野県は、4万8,833トンで引き続き第1位であったが、そのシェアは、12.2%に低下した。

このように見てくると、明治の中期からずっと長野県がダントツの1位であったことが分かる。また、両県とも大幅に収繭量を増加させてきたが、その割合は、他県への養蚕の拡大に伴い、明治19(1886)年の両県合計のシェア28%から漸次低下させてきたことも分かる。

### 日本の蚕糸業への群馬の貢献

しかし、群馬県が日本全体の蚕糸業振興に果たした役割は、数字だけで表せるものではない。

近代製糸業の拠点となった富岡製糸場の稼働と近代的製糸技術を担う工女の育成、養蚕技術と養蚕人材育成に大きく寄与した田島弥平の清涼育の普及活動や高山長五郎が創設した高山社による清温育の教育活動、荒船風穴の活用による蚕種の保存技術の開発など官民挙げての先進的取り組みが



特筆される。これらが日本全国の蚕糸業の発展に大きく寄与したことはあらためて言うまでもない。

### 戦後の繭生産における群馬の地位

それでは、戦後の収繭量はどうなったのであろうか。

群馬県の収繭量が長野県を上回り、日本一になるのは、昭和24(1949)年からである。この年、全国合計の収繭量は、6万1,936トン、群馬県は9,325トンで、長野県の8,804トンを超えたのであった。そのシェアは、それぞれ15.0%、14.2%であった(なお、前記の上毛かるたが作られたとされる昭和22(1947)年においては、群馬県7,832トン、長野県8,294トンであったから、その時点では群馬が日本一というのは事実とは異なっている。日本一になれという願望を込めたものと善意に解釈す

れば、それはその後になって実現し、事実となったということになる。)

なお、生糸の生産量が日本一になるのは、さらにずっと後年のことであるが、本稿では省略する。繭生産の縮小の時に、再び両県のシェアが明治中期と同様になったことは、その他の県の養蚕へのかかわり具合を見る上で興味深い。

その後、昭和28(1953)年に長野県がトップを奪い返すが、長野県のトップはこの年だけで、翌年以降は群馬県が日本一の座を保持し続けることになる。戦後収繭量がピークであった昭和43(1968)年についてみると、全国合計で、12万1,014トン、群馬県は2万7,440トンで、昭和24(1949)年の約3倍となり、そのシェアは22.7%に増加した。一方長野県は、1万6,279トンで、昭和24(1949)年の約2倍となったものの、そのシェアは、13.5%であった。

---

---

両県合計のシェアは3分の1を超えた。その約10年後、収繭量が前年を上回る実績をあげた年の最後となる（以後は減少し続ける）。昭和54（1979）年についてみると、全国合計が8万1,264トンと減少する中で、群馬県は2万1,650トンで、昭和43（1968）年の2割減となったものの、そのシェアを26.6%と増加させた。一方、長野県は6,944トンで、昭和43（1968）年の半分以下となり、そのシェアは、8.5%に低下した。

### 他県と異なる群馬の事情

それでは、戦後一定期間は、両県とも足並みをそろえて養蚕振興に取り組んできたと考えられるのに、昭和40（1965）年代以降、大きくその位置づけを異にし、群馬県が我が国の蚕糸業の中核となったのはなぜであろうか。

その第1は、農業基本法の「選択的拡大」路線の受け入れが容易でない地域があったと考えられることである。

周知のように、昭和36（1961）年、「農業基本法」が制定されたが、その目玉の一つが選択的拡大であった。需要の伸びる農産物の拡大を図る一方、需要の減退する農産物からの撤退ないしは転換を求めるものであった。農業基本法の根拠となった「農林漁業基本問題調査会」の答申においては、需要の見通しとして、①でん粉食糧の消費は長期的には減退する。②イモ類の需要は伸びない。③畜産物の消費は急速に増大する。④果実及び特殊野菜は、畜産物に次ぐ

高いテンポで増大する。⑤油脂及び砂糖はプラス傾向。⑥繭は海外需要の喚起がなければ需要の増大は期待できない。とされた。このような背景のもとに、昭和40（1965）年代、長野県においては、桑からりんご、ブドウなどの果樹や高原野菜などへの転換が進み、大幅に収繭量を減らしたのであった。今日、長野県の農産物の生産額において、野菜が約30%、果樹が約25%のシェアを占めている（平成24（2012）年）ことにも、その転換ぶりが窺える。

一方、群馬県においては、中部・東部の平たん地での畜産・野菜への転換、北部山間地帯での果樹・野菜への転換は行われたものの、西部・中部の中山間地帯では他作物への転換はさほど進展せず、むしろ養蚕が選択され、続けられた。今日、群馬県では、豚、乳牛などの畜産と野菜の生産額が、それぞれ40%程度のシェアを占めているが、果樹は4%程度にすぎない。このことは、コンニャクの生産量において群馬県が第1位であるのと同様、土地条件が大きくかわりあっているものと考えられる。

第2には、輸入生糸・絹製品の増加とそれによる養蚕の収益性低下への耐性である。

これは、選択的拡大路線が一段落した後の昭和40（1965）年代の後半ころから明らかになったことであるが、絹需要が減退する中で、内外価格差が大きくなったことによって生糸・絹製品の輸入が増加するというそれまでに経験したことのない事態が生じた。このため、絹の需要拡大策の実施

---

---

や生糸の一元輸入制度の発動などによる輸入量の抑制と価格の下落防止に努めてきたが、大きな流れとしての価格の下落傾向を完全には防止することができず、徐々に養蚕の収益性は低下していき、他作物への転換にドライブがかかった。

しかし、群馬県の養蚕農家は、減少していったとはいえ、他県のように、雪崩<sup>なだれ</sup>を打って減少するということではなかった。収益性低下に対する耐性があったと言えるのではなかろうか。

とは言っても、頑張ってきたが楽ではなかったというのが偽らざるところであろう。

### 群馬の蚕糸業の再構築

そういう厳しい状況の中で頑張っていたら、とうとう光を浴びる時が来た。

平成 26（2014）年 6 月の「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界文化遺産への登録である。このことは、蚕糸業に従事する人に誇りを呼び戻すとともに、国民の間に蚕糸業と絹に対する一定程度の関心があることを明らかにした。そして、同年 12 月、

富岡製糸場の主要建築物は国宝に指定された。「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、素晴らしい観光資源でもある。

そして、幸いなことに群馬には、我が国最大の「現役の製糸工場」である碓氷製糸農業協同組合（群馬県安中市）がある。養蚕と製糸がセットで存在している県は極めて少ない。加えて、群馬には桐生、伊勢崎という機業地もある。群馬として、これを生かさないとはいはない。新規に養蚕に取り組む人や企業の育成を行うとともに、碓氷製糸を中核として、「いい糸づくり・いい繭づくり」を共通目標に、群馬の蚕糸業の生産体制を再構築する絶好の機会が来たのだ。

今や、「蚕糸」は、特産物であり、むしろ群馬の宝というべきものとなった。上毛新聞社（群馬県前橋市）が広めた「シルクカントリー群馬」の合言葉や最近文化庁から認定された日本遺産「かかあ天下一ぐんまの絹物語」も含めて、これまでの成果を生かした、たくさんの絹物語が紡<sup>つむ</sup>がれることを期待してやまない。

## 平成 27 年度貞明皇后研究助成採択一覧（13 件）

### 貞明皇后研究助成とは？

本会は、蚕糸絹に関する科学技術の研究及び発明並びにその応用を助長し、蚕糸絹文化の継承と蚕糸絹業の改良発達に寄与することを目的として、本会の総裁であられた貞明皇后の御名を冠した研究助成を毎年度行っています。

今年度は、下記の 13 課題について採択をしました。

研究題目 及び 研究概要（申請時）	研究代表者	助成金額
1 シルク起毛加工技術の開発と洋装への応用に関する研究	純国産繭のフォーマル研究会 代表 平川 嘉一	2,000 千円
<p>高級な起毛織物としては獣毛を用いたカシミアが著名であるが、シルク分野では、副蚕糸を原料とする絹紡糸を用いて起毛加工した高級毛布の商品化が行われているだけである。そこで、本研究では、入手方法が輸入のみで雑多な蚕品種の糸を原料とした絹紡糸ではなく、純国産生糸を使った長繊維で織り上げた生地に対する起毛加工技術を確立し、カシミアを超えるような国内およびヨーロッパ向けの高級服地の開発を行うことを目的とする。</p>		
2 国産繭を用いた組紐の製品開発に関する総合的研究	文化学園大学 共同研究員 道明 三保子	1,615 千円
<p>帯締めを中心とする組紐製品について、これまでに申請者は数種の国産繭を用いた組糸や帯締めの比較を行い、「ぐんま 200」を蚕品種として選定した。本研究では「ぐんま 200」の特性を活かした組紐製品の最も優れた製作条件を求め、糸から製品に至るまでの、製糸、合糸、撚糸、精練、染色、製紐の各工程の技術を見直し、外国産糸や製品と比較し評価する。さらに現代ファッションにふさわしい国産繭を用いた組紐製品を開発し、純国産組紐製品の魅力を十分伝えることのできるプレゼンテーションの方法を構築する。</p>		

研究題目 及び 研究概要 (申請時)	研究代表者	助成金額
3 クワコの繭糸特性を導入した実用蚕品種の選抜とその製品開発に関する研究	東京農工大学 准教授 横山 岳	2,000 千円
<p>カイコとクワコの交雑種の繭糸は織度が細く、強度が強いという特色があり、手触り感の良好な織物が作出できることから、本研究ではカイコとクワコの交雑種を用いて、採卵から製品作成まで（・交雑形式の検索と原種の育成、・人工飼料育の検討、・糸質の検定など）の過程を検討し、クワコの繭糸特性を導入した実用蚕品種の選抜と生糸および紬糸からの織物製品の作出を行い、蚕糸・絹業提携事業を支援する。</p>		
4 カイコの休眠性をコントロールする人工飼料の開発	信州大学繊維学部 准教授 塩見 邦博	2,000 千円
<p>最近、我々は次世代卵の休眠性を決定できる 2 種類の人工飼料を発見した。この人工飼料に含まれる休眠性に影響を与える成分を同定するとともに、この有効成分のセンシングから休眠ホルモン放出に関わる遺伝子の同定を試みる。さらに、これらの知見をもとに新しい人工飼料の開発を行う。これらの成果は、遺伝子組み換えカイコの作出を迅速・効率的に行うことを可能にし、特徴ある生糸の生産に貢献できると考えられる。</p>		
5 小枠の生糸を直接撚糸するシステムとその応用	金勝 廉介	1,069 千円
<p>新增澤工業株式会社（岡谷市）が新規設計した生糸撚糸機（モデル H26 型）は、生糸繰糸小枠に巻きとられたままの生糸をコーンやスピンドル巻きを介さず、直接撚糸することが可能な装置である。本研究では、同装置の実際の運用にともなって発生するであろう数々の問題点を収集し、活用法の改善と装置の改良提案を行いたい。一方この装置で撚糸されたばかりの糸を酵素精練剤槽に導くことで、精練絹糸を直接大枠巻きとり・紵形成につなげる条件を検討・開発する。</p>		
6 ゲノム解析による母蛾検査検出微胞子虫の検証	日本大学 准教授 畠山 吉則	1,900 千円
<p>母蛾検査の結果検出された微胞子虫は原則として廃棄されるため、その詳細は不明である。そこで検出された微胞子虫のゲノム解析を行い、従来より報告されている微胞子虫と同様のものであるかを判定することを目的とする。</p>		

研究題目 及び 研究概要 (申請時)	研究代表者	助成金額
7 単為発生を利用したカイコ凍結卵巣からの個体再生率の向上	農業生物資源研究所 主任研究員 内野 恵郎	1,062 千円
<p>カイコでは卵巣や精子での凍結保存の技術が開発され、長期間凍結保存していた卵巣や精子から個体を再生することが可能である。卵巣では自然産卵ができないケースも多く、単為発生処理により個体を再生する必要がある。しかし、遺伝子組換えカイコをはじめ、一般に原種として扱われるカイコの類は単為発生能が低い。そこで、高い単為発生能を有する系統を遺伝子組換えカイコの作出に利用することを試みるとともに単為発生能を持たないカイコに一過的に単為発生能を付与するための研究を行う。</p>		
8 「塩溶液繭保存及び繰糸法」と工房型小規模養蚕を組み合わせた、生糸・絹製品生産の可能性に関する研究	京都工芸繊維大学 准教授 高濱(一田) 昌利	1,143 千円
<p>「塩溶液繭繰糸法」が学術論文として、蚕糸・昆虫バイオ 80 (3) (2011) に掲載され、学問としての根拠を得た。この理念に基づき平成 25、26 年は全齢桑葉飼育による繭について「塩溶液繭繰糸法による生糸の実用化の可能性に関する研究」を行い、編物・織物として実用化可能であると思われる結果を得た。本研究では、今後の国内養蚕の一形態として、蚕の飼育から生糸生産並びに編物・織物生産を目的とした工房型小規模養蚕の確立を目指す。</p>		
9 洋装に求められる絹の特性に関する研究 —洋服制作からの比較検討—	日本大学 教授 伊豆原 月絵	2,000 千円
<p>絹の生産、消費を拡大するためには、洋装分野への利用・展開が不可欠である。既往研究では、和装に適する生糸や絹の品質・特性について十分な知見が得られているが、洋装に求められる絹の品質・特性については、ほとんど検討がなされていないのが実状である。本研究では、既存の品種数種とロココの宮廷衣裳の復元研究に用いた欧州種と既存品種をかけ合わせた蚕品種を飼育し、繰糸方法を検討して製織を行い、洋服を制作し、各種試験から洋装に適する絹の品質・特性を明らかにすることを目的とする。</p>		
10 あらゆる家蚕品種・系統に適用可能な凍結保存精子—人工授精システムの構築	京都工芸繊維大学 助教 長岡 純治	1,992 千円
<p>凍結保存未成熟精子を代替精子成熟誘発因子であるトリプシンで処理し、これを人工授精に供するシステムは、品種・系統の効率のよい保存・活用にとって有用なものである。しかし、この系は、あらゆる品種・系統に適用することができていない。申請者は、家蚕に存在する真の精子成熟誘発因子・イニシャトリンを同定し、それにより誘発される精子成熟反応系を明らかにしてきた。本研究では、これらの知見に基づき、イニシャトリンの利用法と凍結精子の再生や成熟反応の安定化法を開発し、既存システムの高度化を目指す。</p>		

研究題目 及び 研究概要 (申請時)	研究代表者	助成金額
11 蛍光フラボノイドを効率よく生産する蚕品種育成とフラボノイド抽出技術の開発	農業生物資源研究所 主任研究員 平山 力	1,925 千円
<p>笹繭に含まれる蛍光フラボノイドを利用した製品の開発を促進するため、本蛍光物質を効率よく生産する笹繭品種の選抜を行う。同時に、セリシン蚕の持つNd 遺伝子を導入した品種を育成し、繭からのフラボノイド抽出の簡易化・効率化を図り、低コストなフラボノイド生産及び分離・精製技術を確立する。得られたフラボノイド抽出物を用いて、染色剤としての利用を試みる。</p>		
12 新規参入者のための蚕飼育方法の開発	群馬県蚕糸技術センター 独立研究員 清水 健二	1,500 千円
<p>養蚕への新規参入を妨げる作業面の要因として、飼育資材の多くが製造中止となっていること、除沙などの組作業が多いこと等が挙げられる。また、個別の作業において腰への負担が大きいことも課題である。そこで、新規参入希望者が、容易に調達可能な資材を利用し、身体的な負担を軽減した蚕の飼育設備と省力的な飼育方法を開発するとともに、開発技術の現地実証を行う。</p>		
13 繭処理別、繰糸方法別、織機別白生地の実証的比較研究	株式会社伊と幸 取締役 宮 忠光	1,765 千円
<p>初年度は、輸入糸・純国産乾繭糸の機械繰糸と純国産生繰り糸の座繰糸の違いを、蚕糸科学研究所において物性や風合い試験等の試験を行う。次年度は、上記の糸からなる後染め白生地の手織りと機械織り生地の違いを、蚕糸科学研究所における試験に加え、問屋・小売の専門家、学識経験者による官能試験を行う。本結果に基づき、純国産糸を用いた、座繰り・手織りによる後染め社交着の特徴について、理解度、認知度を上げ純日本の絹へのこだわりを新たな価値として創出していき、もって純国産絹製品の需要拡大に資する。</p>		
<b>合計 13 件 助成金総額 21,971 千円</b>		

貞明皇后研究助成の応募方法等の詳細は、本会ホームページの「貞明皇后蚕糸記念科学技術研究助成について」を参照してください。

■平成 28 年度 貞明皇后研究助成 年間スケジュール (予定)

募 集 期 間	平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 1 月 29 日
選 考	平成 28 年 4 月中旬 蚕糸褒賞等選考委員会にて選考
助 成 決 定 の 通 知	平成 28 年 5 月上旬
研 究 助 成 実 施 期 間	平成 28 年 5 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日
助 成 金 の 支 払 い	平成 28 年 5 月下旬
実 績 報 告 書 の 提 出 締 切	平成 29 年 3 月 1 日
助 成 金 額 の 確 定 作 業	平成 29 年 3 月上旬～中旬
研 究 成 果 報 告	平成 29 年 4 月中旬 蚕糸褒賞等選考委員会にて報告

# イベント情報

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
純国産絹製品の紹介	(株)伊と幸 出展者は、京都室町の独自の紋柄をもつ老舗の白生地問屋。オリジナルブランド「松岡姫」の白生地の幅広い展示。	<会期> 平成27年9月14日(月) ～10月9日(金) <開催時間> 10:00～18:00	<主催> ジャパンシルクセンター <会場> ジャパンシルクセンター
ジャパンシルクセンター特別展示	日本絵染め協会展示	10月19日(月) ～23日(金)	〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4蚕糸会館1階 TEL: 03-3215-1212 FAX: 03-3214-1700
	京丹後市商工振興会展示	10月26日(月) ～30日(金)	
	帛撰 西陣織展示会	11月4日(水) ～6日(金)	
	さくら工房 絹服展示会	11月9日(月) ～20日(金)	
	絹まつり 冬	12月7日(月) ～10日(木)	
第33回企画展 「花まゆ展～繭から 生まれた花～」	伝統ある日本の絹文化の大切さを次世代につなげていくために、カイコがつくる国産の繭や糸を使い天然素材のもつ素晴らしさを充分活かして、ひとつひとつ丹精を込めて制作された美しい繭の花の芸術作品を紹介するとともに、繭のもつ様々な表情と魅力をより多くの方々に伝えます。 <ギャラリートーク> 講師：酒井登巳子（花まゆ主宰） <パネルディスカッション> コーディネーター：藤井浩（上毛新聞社論説委員長） パネリスト：酒井登巳子（花まゆ主宰）、高橋純一（甘楽富岡蚕桑研究会会長）、毛利弘（群馬県蚕糸園芸課絹主監）	<ギャラリートーク> 日時：9月12日(土) 11:00～11:30 参加費：無料 <パネルディスカッション> 日時：10月1日(木) 14:00～15:30 参加費：無料 定員：120名	<主催> 群馬県立日本絹の里 <お問合せ> 日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 TEL: 027-360-6300

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
無料体験 ぐんまちゃんの桑の 木ストラップ作り	内容：輪切りになった桑の木を使いぐんまちゃんのストラップを作ります。 講師：当館職員 定員：各回 20 名 費用：無料（観覧料が必要）	日時：9 月 19 日（土）、 10 月 4 日（日） 10:00～12:00 13:30～15:30 申込：予約不要、当日 30 分前より受付（先 着順）	<主催> 群馬県立日本絹の里 <お問合せ> 日本絹の里 〒370-3511 群馬県高 崎市金古町 888-1 TEL：027-360-6300
無料体験 ぐんまちゃんの桑の 和紙はがき作り	内容：ハガキサイズに作られた桑の和紙に、ぐんまちゃんのスタンプでオリジナルのはがきを作ります。 講師：当館職員 定員：各回 20 名 費用：無料（観覧料が必要）	日時：9 月 21 日（月・ 祝）、23 日（水・祝） 10:00～12:00 13:30～15:30 申込：予約不要、当日 30 分前より受付（先 着順）	
無料体験 絹のはぎれストラッ プ作り	内容：スチロールボールを絹のはぎれで包んだストラップを作ります。 講師：当館職員 定員：各回 20 名 費用：無料（観覧料が必要）	日時：10 月 17 日（土） 10:00～12:00 13:30～15:30 申込：予約不要、当日 30 分前より受付（先 着順）	
有料体験 ちりめん「小風呂敷」 型染め体験	内容：日本絹の里オリジナル型紙を使用して、型染めのちりめん小風呂敷を作ります。 講師：当館職員 定員：各回 10 名 費用：2,000 円（観覧料が必要） 会場：染色体験室	日時：9 月 26 日（土）、 10 月 9 日（金） 10:00～12:00 13:30～15:30 申込：要電話予約 （8 月 24 日（月）9:30 から予約開始、先着順）	
第 34 回企画展「皇居 のご養蚕と養蚕業の 歴史・未来」	皇居のご養蚕のご様子や養蚕業の歴史を紹介するとともに最新の研究である光る繭やクモの糸の遺伝子を持つ蚕の糸等について展示し、未来に向かった新たな養蚕業の可能性について紹介します。	平成 27 年 10 月 24 日 （土）～12 月 14 日 （月）	

イベント名	企画・展示内容	開催日(期間)	場所・主催者等
TOKITA COLLECTION 展	アンティークストッキング収集研究家鴫田章(ときた・あきら)氏が30年間かけて収集した TOKITA COLLECTION の中からテーマ別展示とその歴史解説の講演を毎回行い、平成26年12月より約1年をかけてリレー展示。 第5回: 「ストッキングのパッケージデザイン ～百貨店の登場による売り方の変化～」 第6回: 「国産フルファッション・シルクストッキングの誕生～日本最初の5メーカー全作品と海外作品競演～」	<開催日> 第5回: 平成27年8月2日(日)～9月30日(水) 作品解説 9月12日(土) 午後2時より 第6回: 平成27年12月1日(火)～平成28年1月31日(金) 作品解説:12月12日(土)・1月9日(土) 午後2時より	<主催> シルク博物館 〒231-0023 横浜市中区山下町1番地 シルクセンター2階 TEL:045-641-0841 <お問合せ> 同上 <開館期間> 午前9時30分～午後5時まで(入館は4時30分まで) <休館日> 月曜日(祝日の場合は翌日)、
今に生きる江戸小紋～小宮家四代の作品を中心に～	・江戸小紋について講演会(10月24日(土)) ・型紙彫実演(錐彫)(10月24日(土)、25日(日)) ・型紙彫実演(道具彫)(10月31日(土)、11月1日(日))	平成27年10月10日(土)～11月8日(日)	
岡谷蚕糸博物館開館一周年記念企画展「市田ひろみ世界の旅展」～シルク工芸美で巡る、アジア・ヨーロッパ	本企画展では市田ひろみ氏のコレクションから貴重な手仕事のシルクの民族衣装を展示し、アジアからヨーロッパにかけて人々が大切にしてきたシルクの魅力について考察します。	<開催日> 平成27年7月30日(木)～11月1日(日) ・市田ひろみトークショー 9月5日(土) 10:00～12:00 ・ギャラリートーク 9月6日(日) 10:00～11:00	<主催> 岡谷蚕糸博物館 〒394-0021 長野県岡谷市郷田1-4-8 TEL:0266-23-3489 休館日:毎週水曜日・祝日の翌日
シルクカンントリーぐんま 絹の国サミット	○シルクカンントリーぐんま 絹の国サミット 「富岡製糸場と絹産業遺産群」と関連の深い県外地域関係者を集め、日本全体の絹の歴史や価値等を通じて、群馬県世界遺産の価値の理解促進と広報を図る。	平成27年10月3日(土)13:00～16:30 ・基調講演 ・事例紹介(兵庫県養父市、山形県鶴岡市、長野県長野市、松本市) ・パネルディスカッション	<主催> 群馬県、上毛新聞社ほか <場所> 富岡製糸場東繭倉庫 〒370-2316 群馬県富岡市富岡1-1 TEL:0274-64-0005

イベント名	企画・展示内容	開催日（期間）	場所・主催者等
	○アジア産業遺産シンポジウム 海外から有識者を招聘し、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の国際的な価値の理解促進と広報を図る。	平成 27 年 10 月 4 日 （日） 13：00～ 世界遺産登録 1 周年 記念式典 14：15～ アジア産業遺産シン ポジウム	<お問合せ> 上毛新聞社 〒371-8666 前橋市古 市町 1-50-21 TEL：027-254-9911
東京農工大学科学博物館企画展「農工大の国際技術支援の紹介展」	農が支える世界の資源と文化～ウズベキスタンのカイコが育む、アマゾンの森と共にある、人々の暮らし～	平成 27 年 7 月 22 日 （水）～10 月 3 日 （土） 入場料：無料 <開館日・開館時間> 火曜日～土曜日 10：00～17：00 入館は 16 時まで <休館日> 日・月・祭日	<主催> 東京農工大学科学博物館・東京農工大学農学部 <場所> 東京農工大学科学博物館 〒184-8588 東京都小金井市中町 2-24-16 TEL：042-388-7163
シルクサミット 2015 in 滋賀長浜	生糸のある生活—伝統技術と最新バイオテクノロジーそして融合— <第 1 日目> 基調講演：「長浜の歴史と絹産業」（太田浩司） 特別講演：「絹弦作りの歴史と研究開発」（橋本圭祐） 研究活動報告：「シルク製品の近年の傾向」（森下あおい） 「カイコを用いた組換えタンパク質生産」（立松謙一郎） 「蛍光シルクを用いた製品開発」（長谷健次） <第 2 日目> 豊公園周辺ぶらぶら散策 （長浜城歴史博物館、黒壁ガラス館など見学（約 2 時間））	平成 27 年 10 月 15 日 （木）～16 日（金）	<主催> 農業生物資源研究所、大日本蚕糸会、岡谷蚕糸博物館、シルクサミット 2015 in 滋賀長浜実行委員会 <場所> 長浜ロイヤルホテル 滋賀県長浜市大島町 38 TEL：0749-64-2000

年月日	活 動 内 容 等
27.7.8	群馬県稚蚕共同飼育所の視察（群馬県）
27.7.14	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会の平成27年度試作品審査会（東京都有楽町 蚕糸会館）
27.7.23 ~ 7.24	宝絹展及び蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業に係る打合せ（宮城県、山形県）
27.7.27 ~ 7.29	養蚕資材の打合せ及び伊予生糸産地再生会議への出席（愛媛県）
27.7.29 ~ 7.30	子ども霞が関見学デーへの協力（東京都霞が関 農林水産省）
27.7.31	純国産絹マーク審査委員会（平成27年度第2次）（東京都有楽町 蚕糸会館）
27.8.21 ~ 8.22	信州ブランド繭・蚕用途開発協議会への出席及び製糸業者との打合せ（長野県）
27.8.25	蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会WG会議（東京都有楽町 蚕糸会館）



農林水産省「子ども霞が関見学デー」（H27.7.29 ~ 30）

## 平成 27 年度第 2 次分の純国産絹マーク使用許諾状況

純国産絹マークの平成 27 年度第 2 次審査会を平成 27 年 7 月 31 日（金）に開催しました。今回は、7 者から申請があり、新規申請者が 1 者 1 品目、使用許諾されている者の 6 者が製品の追加 3 品目、履歴の追加 6 品目、数量の追加 7 品目の申請がありました。これらの申請を審査委員会で審査した結果、7 者 17 品目に対し、8 月 7 日（金）付けで純国産絹マークを使用許諾する旨通知しました。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(新規) (株) 龍村美術織物 代表者名：龍村清 (担当者：榎垣展康) 〒 604-8101 京都市中京区 柳八幡町 65 京都朝日ビル 2 階 TEL：075-211-3488 表示者登録番号 210	先染帯地 (本袋帯) (特例)	50本	繭生産 JA 前橋市管内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 染 色 (有) 宏和染工所 製 織 自社
(数量・製品の追加) (株) 高島屋 代表者名：木本茂 (担当者：武田陽子) 〒 542-8510 大阪市中央区難波 5-1-5 TEL：06-6631-1101 表示者登録番号 030	(数量の追加) 後染反物 (訪問着)	9枚	繭生産 JA 那須南管内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 竹林 染色加工 (株) 千總
	(製品の追加) 風呂敷	128枚	繭生産 JA 南三陸管内養蚕農家 製 糸 松岡 (株) 製 織 (株) 山藤 染色加工 宮井 (株)
(製品の追加) 近江真綿振興会 代表者：北川茂次郎 (担当者：北川茂次郎) 〒 521-0081 滋賀県米原市多和田 1406 TEL：0749-54-0227 表示者登録番号 166	シヨール	200枚	繭生産 JA 愛媛たいき管内養蚕農家 (詰物) 真綿生産 北川茂次郎 (側) 製 糸 松澤製糸所 製 織 (株) 前田源商店 縫 製 安部義行

# 提携支援センターから

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(製品・履歴・数量の追加) (株)丸万中尾 代表者：中尾浩祥 (担当者：中尾浩祥) 〒526-0835 滋賀県長浜市室町 180 TEL：0749-62-1660 表示者登録番号 028	(履歴の追加) 後染反物 (江戸小紋)	5反	蚕品種 小石丸 繭生産 柳沢敏明・黛嘉重 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん(株) 染色 藍田正雄 販売 (株)高島屋
	(製品の追加) 白生地 (表地)	16反	蚕品種 小石丸 繭生産 柳沢敏明・黛嘉重 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん(株) 販売 (株)高島屋
	(履歴の追加) 後染反物 (手染着尺・友禅)	15反	蚕品種 ぐんま200 繭生産 JA 甘楽富岡管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん(株) 染色 京都小泉(株) 販売 京都小泉(株)
	(履歴の追加) 後染反物 (江戸小紋)	45反	蚕品種 ぐんま200 繭生産 JA 甘楽富岡管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん(株) 染色 (株)一会
	(数量の追加) 後染反物 (江戸小紋)	60反	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 羽賀恒明 染色 (株)一会
	(数量の追加) 後染反物 (江戸小紋)	120反	蚕品種 春嶺×鐘月 繭生産 JA 碓氷安中管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 小林庸男 染色 (株)一会
	(履歴の追加) 後染反物 (手描友禅)	60反	蚕品種 ぐんま200 繭生産 JA 甘楽富岡管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 製織 南久ちりめん(株) 染色 (株)一彰 販売 大進ホンダ(株)
(数量・履歴の追加) 大門屋 代表者：高橋弘直 (担当者：高橋弘直) 〒912-0081 福井県大野市元町 9-22 TEL：0779-66-2185 表示者登録番号 128	(数量の追加) 白生地 (表地・牛首紬・ 玉小石)	10反	蚕品種 玉小石 繭生産 杉本英夫 製糸 加藤機業場 製織 加藤機業場
	(数量の追加) 白生地 (帯地・牛首紬・ 玉小石)	5本	蚕品種 玉小石 繭生産 杉本英夫 製糸 加藤機業場 製織 加藤機業場
	(履歴の追加) 白生地 (表地・牛首紬・ 玉繭3号)	3反	蚕品種 玉繭3号 繭生産 杉本英夫 製糸 加藤機業場 製織 加藤機業場
	(履歴の追加) 白生地 (帯地・牛首紬・ 玉繭3号)	5本	蚕品種 玉繭3号 繭生産 杉本英夫 製糸 加藤機業場 製織 加藤機業場

# 提携支援センターから

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (繭生産地・企業等)
(数量の追加) 田中種 (株) 代表者：田中隆 (担当者：田中隆) 〒541-0054 大阪市中央区南本町 2-1-14 タイヨウマークビル3階 TEL：06-6261-2091 表示者登録番号 060	ニット (肌着)	800枚	繭生産 JA につたみどり管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 撚糸 昭和撚糸工業 (株) 製編・縫製 (株) 森下メリヤス
(数量の追加) メーカーズシャツ鎌倉 (株) 代表者：貞末民子 (担当者：貞末民子) 〒248-0003 神奈川県鎌倉市 浄明寺5-7-31 TEL：0467-61-3244 表示者登録番号 202	ニット (肌着)	800枚	制作企画 田中種 (株) 繭生産 JA につたみどり管内養蚕農家 製糸 碓氷製糸農協 撚糸 昭和撚糸工業 (株) 製編・縫製 (株) 森下メリヤス

# 提携支援センターから

## 純国産絹マーク使用許諾者及び絹製品名一覧

平成27年7月31日 (H27-第2次) 現在

表示者 登録番号	企業名	所在地	主な絹製品名
001	(株) 千總	京都市中京区	後染反物(振袖、訪問着、付下、色無地、留袖、黒留袖、喪服)、胴裏
002	(株) 織匠田歌	京都市上京区	先染反物、後染帯地
004	(株) 丸上	東京都中央区	後染反物(色無地、小紋、付下、黒紋付)、後染帯地
005	(株) 坂本屋	茨城県土浦市	後染反物(色無地)、胴裏(灰汁浸け加工)
006	(有) 平原	福島県白河市	後染反物(色無地、黒紋付)
007	(株) 信盛堂	東京都清瀬市	後染反物(色無地、黒紋付)
008	(株) きものアイ	新潟県十日町市	後染反物(色無地)
009	(株) 上庵	岩手県北上市	後染反物(色無地、黒紋付)
010	(有) 樹(いづき)	秋田県横手市	後染反物(色無地、黒紋付)
011	(株) 銀座もとじ	東京都中央区	後染反物(作家作品)、後染帯地、先染反物(大島紬、結城紬、御召、作家作品)、先染帯地(織九寸帯、織角帯、作家作品)、白生地、和装小物(帯締、羽織紐)、八掛、胴裏
012	河瀬満織物(株)	京都市上京区	先染帯地
013	(有) 織匠小平	京都市北区	先染帯地
015	(株) 結華	静岡県清水町	後染反物(色無地、黒紋付)
016	(株) 絹回廊	東京都中央区	後染反物(色無地)
017	(有) 琴路屋	岩手県釜石市	後染反物(色無地、黒紋付)
018	(有) 大善屋呉服店	福島県会津若松市	後染反物(色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地(表地)
019	丸善本店	福島県いわき市	後染反物(色無地、黒紋付)、白生地(表地)
020	呉服のささき	山形県天童市	後染反物(色無地、黒紋付)
021	日本蚕糸絹業開発協同組合 (絹小沢(株))	群馬県高崎市	裏地(胴裏(ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま200、灰汁浸加工、トルマリン加工)、八掛、比翼地)、長襦袢地、後染反物(作家作品、紋付地)、白生地(世紀二一、上州絹星・ぐんま200、新小石丸)、後染帯地((冬物・夏物):うるし糸が5%を超えるもの)、寝衣(うぶ着、おくるみ)、和装小物(袱紗)
022	宮階織物(株)	京都市上京区	先染反物、後染反物
023	21世紀の絹を考える会	京都府城陽市	後染反物(色無地、訪問着)、先染帯地(袋帯(草木染、唐織))
024	碓氷製糸農業協同組合	群馬県安中市	白生地、マフラー
025	丸幸織物(有)	京都府京丹後市	白生地
026	織匠万勝	京都市中京区	先染帯地(袋帯、名古屋帯)、先染反物(御召類)、後染反物(色無地)、先染帯地(袋帯:金銀糸が5%を超えるもの)
027	(有) 織道楽塩野屋	京都府亀岡市	洋装品(マフラー、シャツ、ニット(ウォーマー、腹巻、手袋、靴下))

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
028	(株) 丸万中尾	滋賀県長浜市	後染反物 (江戸小紋、小紋、付下、友禅、色無地)、後染帯地、白生地 (表地)
029	(株) むらかね	青森県八戸市	後染反物 (色無地、黒紋付)
030	(株) 高島屋	大阪市中央区	後染反物 (振袖、七五三着物、色無地、訪問着、黒留袖)、白生地 (長襦袢地、胴裏)、ニット (靴下)、風呂敷
031	(株) さが美	横浜市港南区	後染反物 (黒紋付 (冬用・夏用)、色無地)
032	(有) まるけい	静岡県富士市	後染反物 (色無地、黒紋付)
033	(有) 特選呉服専門店後藤	青森県むつ市	後染反物 (色無地、黒紋付)
034	(株) 小いいけ	山形県鶴岡市	後染反物 (色無地、黒紋付、小紋)
035	(株) 伊と幸	京都市中京区	後染反物 (色無地)、白生地 (表地、胴裏、帯地)、婦人用ブラックフォーマル地、長襦袢
036	(株) 四季のきものおおにし	東京都杉並区	後染反物 (色無地、黒紋付)、後染帯地、白生地 (表地)
037	(株) 和幸	埼玉県久喜市	後染反物 (色無地、黒紋付)
038	(株) 柵屋高尾	京都市北区	先染帯地 (袋帯)
039	(株) つるや	埼玉県川越市	後染反物 (色無地、黒紋付)、白生地 (表地)
040	(株) 越後屋	千葉県市川市	後染反物 (色無地、黒紋付)
041	(株) 小倉商店	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)、白生地 (結城紬)
042	染織家柳崇	東京都世田谷区	先染反物、先染帯地
043	染織家児玉京子	沖縄県竹富町	先染反物
044	草木染工房山村 山村多榮子	東京都八王子市	先染反物、先染帯地、先染服地、ストール
045	手織りよおん 長嶺亨子	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地、ストール
046	祝嶺染織研究所	沖縄県沖縄市	先染反物、先染帯地
047	(株) 龍工房	東京都中央区	帯締
048	からん工房 深石美穂	沖縄県石垣市	先染反物 (紋組、緋)、先染帯地
049	たわた工房	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
050	山音 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地 (変三越、駒組))
051	やまと (株)	京都市下京区	後染反物
053	桜井 (株)	京都市北区	先染帯地
054	有栖川織物 (有)	京都市上京区	先染帯地
055	太田和 (株)	京都市中京区	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
056	(株) 岩田	京都市中京区	先染帯地
057	(有) 神原呉服店	千葉県銚子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
058	浅山織物 (株)	京都市北区	先染帯地
059	(株) やまと	東京都渋谷区	先染帯地、先染帯地 (金銀糸が5%を超えるもの)
060	田中種 (株)	大阪市中央区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠)、黒紋付、加賀友禅、色無地、すかし織着尺)、後染帯地 (九寸名古屋帯)、ニット (靴下、ネック&ボディ、ショルダー、アーム、タンクトップ、腹巻、手袋、ピロケース、肌襦袢)
061	(株) 京扇	東京都中央区	後染反物 (色無地)、胴裏 (パールトーン加工)
062	(株) なごみや	横浜市都筑区	後染反物 (色無地、黒紋付)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
063	丸池藤井 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)、八掛
064	久保商事 (株)	京都市中京区	和装小物 (帯揚、半衿)
065	加賀ゲンゼ (株)	石川県小松市	胴裏
066	千切屋 (株)	京都市中京区	後染反物 (訪問着、付下)、後染帯地
067	荒川 (株)	京都市下京区	和装小物 (帯締、帯揚)
068	第一衣料 (株)	東京都中央区	後染反物 (色無地)
069	(株) 紅輪	川崎市宮前区	後染反物 (色無地)
070	装いの道 (株)	東京都千代田区	白生地 (帯地、表地)、胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工、ぐんま 200、新小石丸)
071	(株) 高橋屋	岩手県一関市	胴裏 (灰汁浸加工)
072	おお又 (株)	大阪市旭区	胴裏 (灰汁浸加工)、ニット (靴下)
073	(株) 天野屋呉服店	栃木県小山市	胴裏 (ぐんま 200 (灰汁浸加工))、白生地 (表地)
074	(株) きもの潮見	愛媛県西条市	胴裏 (パールトーン加工)
075	(株) とみひろ	山形県山形市	胴裏 (酵素精練)
076	(株) 細安	福井県福井市	胴裏 (酵素精練)
077	京和きもの (株)	神奈川県厚木市	胴裏 (酵素精練)
078	(株) まるため	長野県長野市	胴裏 (トルマリン加工、パーリー加工)
079	(株) 小川屋	群馬県前橋市	胴裏 (トルマリン加工、灰汁浸加工)
080	(株) エムラ	山口県防府市	胴裏 (酵素精練)
081	(株) 荒井呉服店	東京都八王子市	胴裏 (酵素精練)
082	(株) 牛島屋	富山県富山市	胴裏 (酵素精練)、後染反物 (小紋)
083	(株) 谷呉服店	福岡県筑紫野市	胴裏 (酵素精練)
084	(株) 登美屋	岩手県北上市	胴裏 (パールトーン加工)
085	(株) 川平屋	愛知県豊田市	胴裏 (パールトーン加工)、後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
086	丸専第一衣料 (株) (丸専きもの)	新潟県長岡市	胴裏 (パールトーン加工)
087	(株) 大丸松坂屋百貨店	東京都江東区	裏地 (胴裏、比翼地 (振袖用))、長襦袢地
088	西陣織工業組合	京都市上京区	マフラー、セーター、カーディガン、ショール
089	(株) あきやま	宮城県綾町	先染反物、洋装品 (ショール、マフラー)
090	藤井絞 (株)	京都市中京区	後染反物 (色無地)
092	(有) 結城屋	兵庫県洲本市	白生地 (表地)
093	(株) ウメショウ	岐阜県瑞穂市	白生地 (表地)
095	(有) カシワギ	山梨県富士吉田市	寝具寝装品 (冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット)、洋装品 (スーツ地、ネクタイ、服飾品 (スカーフ、ストール、シャツ))
096	(株) 北尾織物匠	京都市上京区	先染帯地 (袋帯、名古屋帯)
097	(株) 平田組紐	東京都豊島区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)、羽織紐 (男物、女物)
098	(株) 菱健	京都市中京区	後染反物 (色無地)
099	西野 (株)	京都市上京区	帯締、帯締 (金銀糸が5%を超えるもの)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
100	京商 (株)	鳥取県米子市	後染反物 (色無地、黒紋付)
101	(株) 猪井	新潟県長岡市	後染反物 (色無地)、後染帯地
102	(株) たちばな	新潟県新発田市	後染反物 (色無地)、後染帯地
103	(株) 丸富美	新潟県十日町市	後染反物 (色無地)
104	(株) 絹もの屋まつなが	新潟県三条市	後染反物 (色無地)
105	(株) 山正山崎	愛知県豊橋市	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
106	(有) こくぶん呉服店	福島県福島市	後染反物 (色無地)
107	(株) 染織近藤	岡山市北区	後染反物 (色無地、小紋 (変一越、紋意匠))
108	(株) 宮川呉服店	北海道湧別町	後染反物 (色無地、付下)
109	(株) 和らいふ	札幌市中央区	後染反物 (色無地)
110	(有) きものいなもと	大阪市天王寺区	後染反物 (色無地)
111	(株) 世きね	東京都中央区	後染反物
112	(株) 西陣まいづる	京都市上京区	先染帯地 (袋帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの)、絹九寸帯 (金銀糸が5%を超えるもの))
113	奥順 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)、先染帯地 (結城紬)
114	りょうぜん天蚕の会	福島県伊達市	ショール (天蚕紬糸、天蚕ハイブリッド)
115	(有) 金屋	新潟県上越市	後染反物 (色無地)
116	(株) 鶴屋百貨店	熊本市中央区	胴裏 (酵素精練)、先染反物 (結城紬)
117	黄八丈めゆ工房	東京都八丈島	先染反物 (黄八丈)
118	京屋呉服店	長野県塩尻市	後染反物 (色無地)
119	(資) 車屋呉服店	横浜市南区	後染反物 (色無地、江戸小紋)、白生地 (表地)
120	宮崎 (株)	茨城県結城市	先染反物 (結城紬)
121	(有) 内海呉服店 きもの千歳屋	東京都世田谷区	白生地 (表地 (色無地、訪問着))
122	長島繊維 (株)	栃木県足利市	後染反物 (色無地、小紋、付下、訪問着)、後染帯地
123	(株) しょう美	広島市西区	後染反物 (色無地)
124	(資) 治田呉服店	群馬県富岡市	後染反物 (色無地)
125	(株) 丸十	大阪府東大阪市	後染反物 (小紋)、ニット (靴下)
126	(株) 竹田嘉兵衛商店	名古屋市緑区	胴裏 (酵素精練)
127	(有) 樋口屋京染店	埼玉県鴻巣市	白生地 (表地用 (紋意匠))
128	大門屋	福井県大野市	白生地 (牛首紬)、後染帯地 (牛首紬)、ショール (牛首紬)
129	(株) 加藤萬	東京都中央区	和装小物 (帯揚、半衿)
130	(株) しゃらく	愛媛県新居浜市	後染反物 (小紋)
131	(資) 山中商店	名古屋市中区	後染反物 (小紋)
132	きもの処あだち	大阪府藤井寺市	後染反物 (小紋)
133	西川産業 (株)	東京都中央区	寝具寝装品 (掛布団)
134	繭工房華美	宮城県塩竈市	寝衣 (長肌着、短肌着)
136	(株) 和想	鳥取県鳥取市	後染反物 (小紋)
137	(株) 高島屋呉服店	島根県益田市	後染反物 (小紋)

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
138	富岡シルクブランド協議会	群馬県富岡市	ネクタイ、禪、マフラー（手織り）
139	(株) 丸年呉服店	石川県金沢市	後染反物（小紋）
140	(株) 染織館	徳島県徳島市	後染反物（小紋）
141	(株) 京ろまん	奈良県奈良市	後染反物（小紋）、ニット（靴下）
142	五嶋 (株)	東京都文京区	帯締
143	(株) わふくや	浜松市中区	長襦袢地
144	(株) 布屋呉服店	静岡県富士宮市	胴裏（トルマリン加工）、後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
145	(有) 明石屋	東京都調布市	後染反物（色無地）、後染帯地
146	宮井 (株)	京都市中京区	風呂敷
147	(株) ナカノ	大分県大分市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠）、加賀友禅）
148	(株) 芦田呉服店	京都府綾部市	後染反物（色無地、小紋（変一越、紋意匠））
149	(株) 甲斐絹座	山梨県富士吉田市	ネクタイ、服飾品（スカーフ、ストール、トランクス）、パジャマ、袱紗
150	(有) さいとう呉服店	千葉県市川市	後染反物（色無地、付下）
151	(株) 西松屋	兵庫県姫路市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
152	(株) 西尾呉服店	大阪市福島区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
153	勝山織物 (株)	京都市北区	先染帯地（金銀糸が5%を超えるもの）
154	(有) 石川	群馬県みどり市	後染反物（型友禅、羽二重色無地）、先染反物（ジャガード織）
156	那覇伝統織物事業協同組合	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地、かりゆしウェア、ショール
157	(株) ふじや	福岡県朝倉市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
158	きものおかだ	兵庫県香美町	後染反物（小紋）
159	(株) J S	山梨県富士吉田市	寝具寝装品（ふとん、ふとんカバー）、洋装品（スーツ地、コート地、スカート地、シャツ）、服飾品（スカーフ、ストール）
160	(株) マルシバ	東京都中央区	裏地（胴裏）、和装小物（袱紗）
161	(株) みつわ	大阪府大東市	後染反物（小紋）
162	福紬織物 (株)	福岡市西区	先染帯地（本袋男帯、八寸名古屋帯）
163	(株) 大谷屋	新潟市中央区	白生地(表地)
164	(株) 東京藤屋 (きものレディ着付け学院)	東京都品川区	白生地(表地)
165	(株) 染織こうげい	東京都中央区	白生地(表地)
166	近江真綿振興会	滋賀県米原市	寝具寝装品（布団、膝かけ）、ショール
167	(株) にしむら	兵庫県西脇市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
168	(有) きものおおにし	大阪府東大阪市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
169	(株) コノエ (そめの近江)	東京都豊島区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））、ニット（靴下）
170	(株) つたや	大阪府枚方市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
171	(株) 京呉服小糸伸輔の店	熊本市東区	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
172	(株) マエノ	茨城県石岡市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
173	(株) 本きもの松葉	大阪府富田林市	後染反物（小紋（変一越、紋意匠））
174	(有) 山田呉服店	長野県諏訪市	白生地（変り縮緬）、先染反物（大島紬）

表示者 登録番号	企 業 名	所 在 地	主 な 絹 製 品 名
175	(株) 呉服のながいけ	長崎県南島原市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
176	(株) 京呉服平田	福井県福井市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
177	(株) 布四季庵ヨネオリ	山形県米沢市	先染反物 (置賜紬)、ストール
178	奄美島絹推進協議会	鹿児島県龍郷町	先染反物 (大島紬)、先染帯地 (大島紬)
179	(株) 宮坂製糸所	長野県岡谷市	先染帯地 (八寸名古屋帯)
180	(有) シンセイ	長野県松本市	ニット (腹巻、靴下)
181	(株) 百花	横浜市中区	後染反物 (小紋 (変一越))
182	京呉服好一 (株)	京都市北区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
183	(株) パールトーン	京都市右京区	胴裏 (パールトーン加工)
184	きもの専科まさ井	兵庫県三木市	後染反物 (小紋 (変一越))
185	マテリアル ローブ 磨	東京都練馬区	後染反物 (小紋 (変一越))
186	(株) せんば呉服	兵庫県尼崎市	後染反物 (小紋 (変一越)、訪問着)、先染反物 (緋着尺)
187	(株) 三越伊勢丹	東京都新宿区	白生地 (表地)、帯締、羽織紐、帯締 (金銀糸が 5%を超えるもの)
188	青山きもの (株)	東京都港区	白生地 (表地)
189	ニット青木 (株)	東京都品川区	ニット (スーツ・パンツ、スーツ・スカート、ジャケット、アンサンブル、インナー)
190	渡豊工房	山形県山辺町	先染反物 (綾御召 (男物、女物))、裏地 (紬八掛)
191	(株) リンクピース	福岡市博多区	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
192	きもの宮下 ((有) 新宮)	宮崎県宮崎市	後染反物 (小紋 (変一越))
193	アトリエ I T O 伊藤峯子	沖縄県那覇市	先染反物、先染帯地
194	遊生染織工房 築城則子	北九州市八幡東区	先染反物
195	染織家 杉浦晶子	愛知県高浜市	先染反物、先染帯地
196	(株) 夢工芸染の新井	東京都足立区	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
197	(株) 嵯が野	埼玉県川越市	白生地 (変り縮緬)、先染反物 (大島紬)
198	(株) カインドウェア	東京都千代田区	ストール、ネクタイ
199	(株) 新田	山形県米沢市	後染反物 (ぼかし着尺)
200	(株) ソーホー	京都市下京区	白生地 (紋意匠無地縮緬・紋意匠縮緬)、後染反物 (本加賀訪問着)
201	(株) すずのき	東京都品川区	後染反物 (訪問着・色無地)
202	メーカーズシャツ鎌倉 (株)	神奈川県鎌倉市	ニット (肌着)
203	(株) 丸本岩崎	北海道函館市	裏地 (胴裏絹)
204	(株) 緒方商店 (きもの心おがた)	愛媛県八幡浜市	後染反物 (小紋 (変一越、紋意匠))
205	富士新幸 (株)	山梨県都留市	真綿布団
206	(有) 浅井ローケツ	京都市中央区	後染反物 (色無地・藍染)
207	(有) 呉服のうめね	北九州市小倉北区	白生地 (変一越)
208	(株) ADESSO (きもの工房一休)	神戸市中央区	白生地 (変一越)
209	森秀織物 (株)	群馬県桐生市	先染反物 (御召)
210	(株) 龍村美術織物	京都市中京区	先染帯地 (本袋帯 (金銀糸が 5%を超えるもの))

# 蚕糸絹関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
一般財団法人北海道開拓の村	004-0006	北海道札幌市厚別区厚別町小野幌 50-1	011-898-2692
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-23-3525
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025 - 2	0238-47-5800
松ヶ岡開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ岡 29	0235-62-3985
公益財団法人致道(ちどう)博物館	997-0036	山形県鶴岡市家中新町 10 - 18	0235-22-1199
酒田市美術館	998-0055	山形県酒田市飯森山三丁目 17 - 95	0234-31-0095
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
結城市伝統工芸館	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018 - 1	0296-32-7949
足利織物伝承館	326-0814	栃木県足利市通 3-2589	0284-22-3004
足利まちなか遊学館	326-0814	栃木県足利市通 1-2673-1	0284-41-8201
足利織姫神社	326-0817	栃木県足利市西宮町 3889	0284-22-0313
那須野が原博物館	329-2752	栃木県那須塩原市三島 5 - 1	0287-36-0949
高崎市歴史民俗資料館	370-0027	群馬県高崎市上滝町 1058	027-352-1261
群馬県立歴史博物館	370-1293	群馬県高崎市綿貫 992 - 1 (群馬の森公園内)	027-346-5522
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渚町権田 5344 - 1235	027-340-6060
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
富岡製糸場	370-2316	群馬県富岡市富岡 1 - 1	0274-64-0005
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館“紫(ゆかり)”	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
桐生織物記念館(桐生織物協同組合)	376-0044	群馬県桐生市永楽町 6 - 6	0277-43-2510
コノドント館みどり市大間々博物館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
たくみの里木織の家「椽(つるばみ)」	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
ちちぶ銘仙館	368-0032	埼玉県秩父市熊木町 28-1	0494-21-2112
秩父ふるさと館	368-0044	埼玉県秩父市本町 3-1	0494-23-7300
きもの芸術館(一般財団法人国際文化きもの学会)	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3 - 22 - 7	03-3299-2387
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3 - 26 - 2	0424-81-7656
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2 - 24 - 16	042-388-7163
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989 - 2	0426-76-4064
八王子市郷土資料館	192-0902	東京都八王子市上野町 33	042-622-8939
町田市立博物館	194-0032	東京都町田市本町田 3562	042-726-7531
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
シルク博物館	231-0023	横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
神奈川県立歴史博物館	231-0006	横浜市中区南仲通 5-60	045-201-0926
相模田名民家資料館	229-1124	相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1 - 8 - 25	0258-83-4800

名 称	〒	住 所	電 話
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
塩沢つむぎ記念館（織の文化館）	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227 - 1	0257-82-4888
白山工房（織りの資料館）	920-2501	石川県白山市白峰村ヌ 17	076-259-2859
はたや記念館ゆめおーれ勝山	911-0802	福井県勝山市昭和町 1 - 7 - 40	0779-87-1200
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619 - 1	055-269-3399
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
常田館（絹の資料館）	386-0018	長野県上田市常田 1 - 10 - 3 笠原工業（株）内	0268-22-1230
繊維学部資料館	386-8567	長野県上田市常田 3-15-1 信州大学繊維学部内	0268-21-5454
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号（上田城跡公園内）	0268-22-1274
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564 - 1	0268-42-2158
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ（株）内	0268-41-1800
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
日本司法博物館（松本歴史の里）	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196 - 1	0263-47-4515
岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）	394-0021	長野県岡谷市郷田 1 丁目 4 番 8 号	0266-23-3489
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618 - 4	0263-83-3835
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 - 1	0574-28-1110
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109 - 1	0532-52-5265
豊田市稲武郷土資料館ちゅーま	441-2524	愛知県豊田市黒田町南水別 713	0565-82-3439
豊橋市民俗資料収蔵室	440-0021	愛知県豊橋市多米町滝の谷 34-1-1	0532-63-2026
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204 - 1	059-293-0010
手おりの里・金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野 514	0749-37-4131
織物文化館	601-1123	京都市左京区静中市原町 265 川島織物セルコン内	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都市上京区浄福寺通上立売上大黒町 693 番地	075-431-0020
千總ギャラリー	604-8166	京都市中京区御倉町 80 番地千總本社ビル 2 階	075-211-2531
絹の白生地資料館	604-8176	京都市中京区龍池町 448 - 2 伊と幸ビル	075-254-5884
まゆ村	616-8384	京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
グンゼ博物苑	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ（株）周辺敷地内	0773-43-1050
織元田勇	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112 田勇機業（株）内	0772-72-0307
上垣守国（うえがきもりくに）養蚕記念館	667-0321	兵庫県養父市大屋町蔵垣 246 - 2	079-669-1580
デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）	651-0082	神戸市中央区小野浜町 1-4	078-325-2201
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町越知甲 1577 番地	0889-26-1002
藤村製糸記念館	781-6402	高知県安芸郡奈半利町乙 2630	0887-38-4711

# 蚕糸絹関係機関ホームページ一覧

## 【行政】

農林水産省  
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>  
<http://www.meti.go.jp>

## 【蚕糸絹業関係団体】

(一財) 大日本蚕糸会  
(一財) 大日本蚕糸会 ジャパンシルクセンター  
(一社) 日本絹人織物工業会  
(一財) 日本真綿協会  
丹後織物工業組合  
西陣織工業組合  
T A F S (東京織物卸商業組合)  
K O M S (京都織物卸商業組合)  
(公財) 京都和装産業振興財団  
(一財) 伝統的工芸品産業振興協会  
蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会

<http://www.silk.or.jp>  
<http://www.silk-center.or.jp>  
<http://www.kinujinsen.com>  
<http://www.mawata.or.jp>  
<http://www.tanko.or.jp>  
<http://www.nishijin.or.jp>  
<http://www.tafs.or.jp>  
<http://www.fashion-kyoto.or.jp>  
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>  
<http://www5.somard.co.jp>  
<http://takaraginu.com>

## 【大学・試験研究機関】

(国研) 農業生物資源研究所 <http://www.nias.affrc.go.jp>  
(国) 北海道大学応用分子生物学分野応用分子昆虫学研究室 <http://www.agr.hokudai.ac.jp/rfoa/abs/abs2-1.html>  
(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース応用昆虫学研究室 <http://news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/life.html>  
(国) 宇都宮大学農学部昆虫機能利用学研究室  
[http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect\\_physiology/seiri-research/](http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/insectbiotechnology/insect_physiology/seiri-research/)  
(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室  
<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>  
(国) 東京農工大学農学部生物生産学科 <http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan>  
(国) 東京農工大学工学部生命工学科 <http://www.tuat.ac.jp/~seimei>  
(国) 名古屋大学農学部 <http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>  
(国) 信州大学繊維学部 <http://www.tex.shinshu-u.ac.jp>  
(国) 京都工芸繊維大学工芸科学部応用生物学課程 <http://www.bio.kit.ac.jp>  
(国) 京都工芸繊維大学 <http://www.kit.ac.jp>  
(国) 鳥取大学農学部生物資源環境学科昆虫機能学教育研究分野 <http://muses.muses.tottori-u.ac.jp/>  
(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科 <http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>  
(国) 九州大学大学院生物資源環境科学府蚕学研究室 <http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/lab/sangaku>  
群馬県蚕糸技術センター <http://www.pref.gunma.jp/07/p14710007.html>  
群馬県繊維工業試験場 <http://www.pref.gunma.jp/07/p20210013.html>  
京都府織物・機械金属振興センター <http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>  
(地独) 京都市産業技術研究所 <http://www.tc-kyoto.or.jp>  
(公財) 衣笠繊維研究所 <http://krf-textile.or.jp>  
(一財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所 [http://www.silk.or.jp/silk\\_kagaku/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html)  
(一財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所 [http://www.silk.or.jp/silk\\_gijyutu/index.html](http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html)

## 【学会】

日本シルク学会  
(一社) 日本蚕糸学会  
日本野蚕学会

<http://jssst.sakura.ne.jp>  
<http://jsss.or.jp>  
<http://jswsmo.appspot.com>

## 【博物館】

(一財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館  
群馬県立日本絹の里  
愛媛県西予市野村シルク博物館  
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp>  
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp>  
<http://www.city.seiyo.ehime.jp/soshiki/silkmuseum>  
<http://www.tuat.ac.jp/~museum>

---

---

## 【博物館】

駒ヶ根シルクミュージアム

<http://www.cek.ne.jp/~shiruku>

織成館（京都・上京）

<http://orinasukan.skr.jp>

高崎市染料植物園

<http://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/201401140097>

群馬県立歴史博物館

<http://grekisi.pref.gunma.jp>

岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）

<http://silkfact.jp>

はたや記念館ゆめおーれ勝山

<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/hataya>

## 【富岡製糸場と絹産業遺産群】

富岡製糸場

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>

群馬県 企画部 世界遺産課

<http://worldheritage.pref.gunma.jp/ja>

ぐんま絹遺産

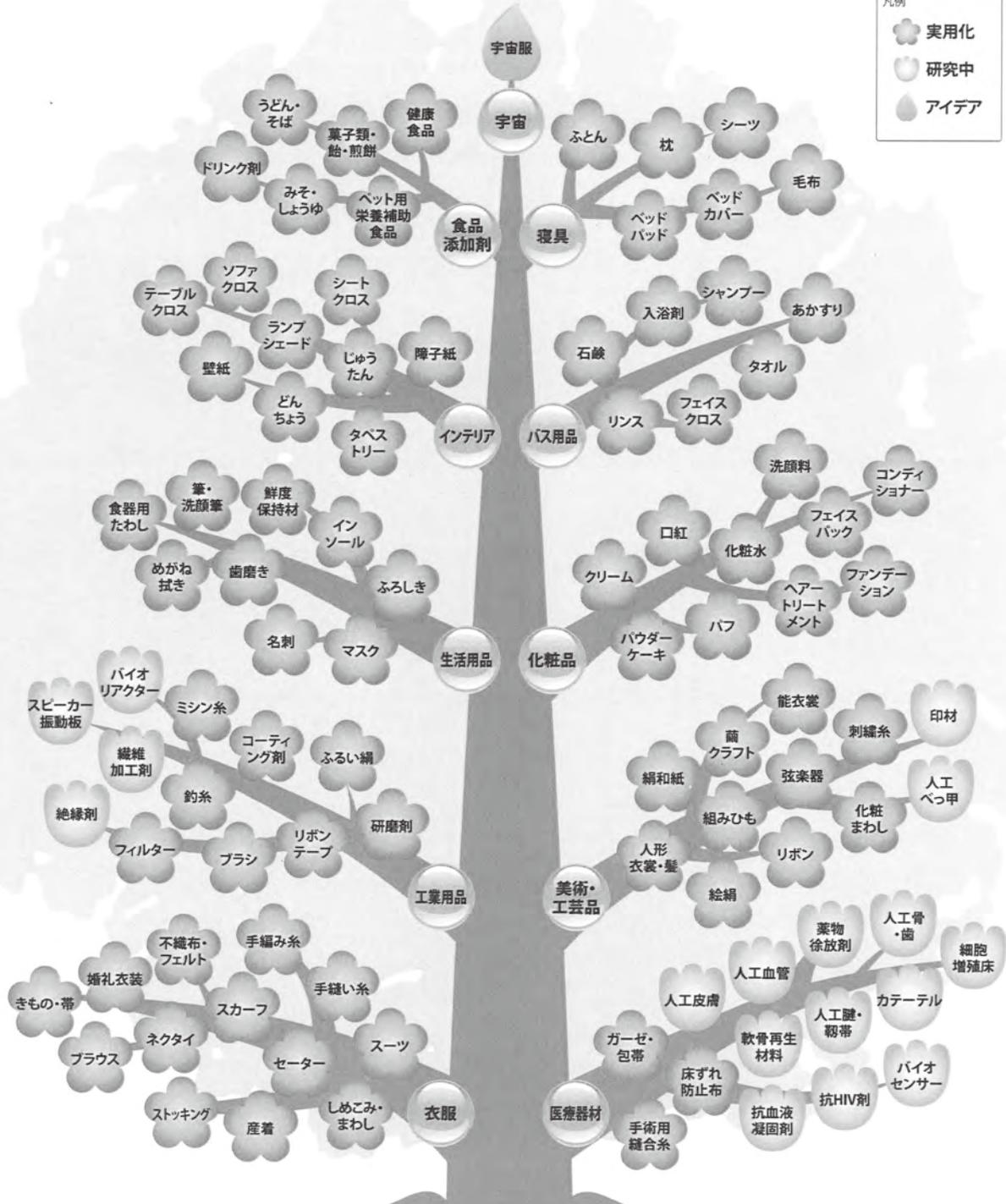
<http://worldheritage.pref.gunma.jp/kinuisan>

上毛新聞社関連記事

[http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk\\_index.html](http://jomo-news.co.jp/ns/series/silk_index.html)

# 絹利用の系統樹

- 凡例
- 実用化
  - 研究中
  - アイデア



## 絹の利用

絹利用検討会 (2012年)

原図:小松 計一

# 統計資料目次

## <国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	50
(2) 養蚕農家数の推移	51
(3) 繭生産数量の推移	52
(4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数	53
(5) 蚕期別、都府県別繭生産数量	54
(6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移	55
(7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況	56
(8) 生糸の織度別生産数量の推移	57
(9) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	58
(10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算）	59
(11) 製糸工場の原料繭需給	60
(12) 製糸工場の操業状況	61
(13) 生糸在庫数量の内訳	62
(14) 蚕糸関係品目別輸入状況	63
(15) 生糸の原産国別輸入数量	64
(16) 絹糸の原産国別輸入数量	65
(17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価	66
(18) 絹織物生産数量	67
(19) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量	68
(20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	69

## <海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	70
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	71
(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格	72
(4) ブラジルの繭・生糸生産数量の推移	73

# 一資料・国内一

## (1) 蚕糸絹業の概要

### Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
年次(暦年) Calendar year	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
(平成)								
1997 (9)	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 (10)	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 (11)	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 (12)	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 (13)	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 (14)	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 (15)	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 (16)	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 (17)	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 (18)	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 (19)	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 (20)	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 (21)	915	327	357	1.2	7	60	33.6	11,472
2010 (22)	756	265	351	0.9	7	49	35.9	11,612
2011 (23)	627	220	351	0.7	7	52	34.7	10,418
2012 (24)	571	202	354	0.5	7	35	33.3	9,974
2013 (25)	486	168	346	0.4	7	35	32.0	10,054
2014 (26)	393	149	379	0.4	7	35		9,368
前年対比(%) 2014/13	80.9	88.7	109.7	100.0	100.0	100.0	-	93.2

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。  
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(一財)大日本蚕糸会調査である。  
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。  
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(一社)日本絹人織織物工業会調査である。  
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。  
 ・平成23年以降の養蚕業は(一財)大日本蚕糸会調査である。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のものである。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)  
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)  
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)  
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)  
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

## (2) 養蚕農家数の推移

## Farm households raising silk-worm

(単位：戸)  
(Unit: number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
2009		915	814	647	755
2010		756	650	494	637
2011		627	562	358	531
2012		571	514	319	462
2013		486	422	260	399
2014		393	359	230	328
対前年比 2014/13 (%)		80.9	85.1	88.5	82.2

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、  
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).  
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).  
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).  
The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

(3) 繭生産数量の推移  
Cocoon Production

年次 Year	項目 Item	年計 Annual total				1戸当り取繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm			
		年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年間	春蚕	初秋蚕	晩秋蚕
		Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	
1994		7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170
1995		5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172
1996		3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173
1997		2,516	982	678	857	398	174	153	167
1998		1,980	769	588	623	390	169	157	151
1999		1,496	596	391	509	371	166	144	155
2000		1,244	500	320	424	379	169	148	157
2001		1,031	391	275	365	378	162	147	161
2002		880	330	231	320	373	166	134	167
2003		775	313	210	253	374	167	140	144
2004		675	256	176	243	369	158	128	157
2005		626	243	165	218	396	171	156	162
2006		505	209	122	173	375	172	143	157
2007		433	175	110	148	371	166	152	150
2008		382	147	96	139	374	158	157	162
2009		327	124	85	118	357	152	131	156
2010		265	107	60	98	351	165	121	154
2011		220	95	49	76	351	169	136	143
2012		202	79	50	73	354	155	156	159
2013		168	61	41	67	346	145	158	168
2014		149	55	36	58	379	153	157	176
対前年比 2014/13(%)		88.7	90.2	87.8	86.6	109.6	105.8	99.6	104.8
2014年 構成比(%)		100.0	36.9	24.2	38.9				

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年）、  
農林水産省生産局調査（2005～2008年）、（一財）大日本蚕糸会調査（2009年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～2008年).

The Dainippon Silk Foundation (2009年～)

#### (4) 蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures

(単位:戸、%)

都府県名	春蚕期			初秋蚕期			晩秋蚕期			年 間		
	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比
青森県	0	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	14	15	107.1	14	10	71.4	17	15	88.2	19	18	94.7
宮城県	17	11	64.7	10	11	110.0	13	14	107.7	21	17	81.0
山形県	7	7	100.0	6	5	83.3	6	6	100.0	8	8	100.0
福島県	53	40	75.5	23	41	178.3	57	47	82.5	58	48	82.8
茨城県	18	18	100.0	13	11	84.6	15	13	86.7	21	18	85.7
栃木県	22	23	104.5	17	18	105.9	23	23	100.0	26	23	88.5
群馬県	157	130	82.8	107	84	78.5	160	120	75.0	181	140	77.3
埼玉県	36	30	83.3	28	20	71.4	29	27	93.1	41	31	75.6
千葉県	7	6	85.7	5	5	100.0	7	5	71.4	7	6	85.7
東京都	4	4	100.0	0	-	-	4	3	75.0	5	4	80.0
新潟県	10	8	80.0	0	-	-	0	-	-	10	8	80.0
福井県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
山梨県	9	11	122.2	7	5	71.4	13	11	84.6	15	12	80.0
長野県	21	14	66.7	16	10	62.5	18	13	72.2	22	17	77.3
岐阜県	13	11	84.6	0	-	-	12	9	75.0	13	11	84.6
愛知県	2	2	100.0	0	-	-	1	-	-	2	2	100.0
京都府	4	3	75.0	0	-	-	3	2	66.7	4	3	75.0
兵庫県	1	1	100.0	0	-	-	1	1	100.0	1	1	100.0
愛媛県	12	11	91.7	7	5	71.4	10	9	90.0	15	11	73.3
高知県	3	3	100.0	0	-	-	2	2	100.0	3	3	100.0
熊本県	6	5	83.3	0	-	-	3	2	66.7	7	5	71.4
宮崎県	2	2	100.0	2	-	-	0	1	-	2	2	100.0
鹿児島県	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0	3	3	100.0
全国計	422	359	85.1	260	230	88.5	399	328	82.2	486	393	80.9

資料:(一財)大日本蚕糸会調査

Source:The Dainippon Silk Foundation

## (5) 蚕期別、都府県別繭生産数量

### Cocoon production by prefectures

(単位：kg、%)

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比	25年	26年	前年対比
青森県	-	-	-	119.3	113.7	95.3%	151.9	93.7	61.7%	271.2	207.4	76.5%
岩手県	1,928.5	1,619.2	84.0%	2,348.0	1,450.7	61.8%	2,597.2	1,989.4	76.6%	6,873.7	5,059.3	73.6%
宮城県	2,369.7	1,791.2	75.6%	2,242.6	2,267.0	101.1%	2,699.2	2,363.9	87.6%	7,311.5	6,422.1	87.8%
山形県	1,311.0	1,222.5	93.2%	821.9	597.6	72.7%	1,482.0	1,570.4	106.0%	3,614.9	3,390.5	93.8%
福島県	10,475.9	8,335.8	79.6%	9,996.8	8,246.5	82.5%	13,435.7	11,998.8	89.3%	33,908.4	28,581.1	84.3%
茨城県	2,925.2	2,335.3	79.8%	1,499.5	1,314.7	87.7%	2,652.3	2,292.5	86.4%	7,077.0	5,942.5	84.0%
栃木県	5,923.3	8,047.0	135.9%	4,015.9	4,528.4	112.8%	9,809.9	10,309.9	105.1%	19,749.1	22,885.3	115.9%
群馬県	21,487.6	19,166.0	89.2%	13,463.2	11,382.4	84.5%	22,606.5	16,456.4	72.8%	57,557.3	47,004.8	81.7%
埼玉県	5,215.7	3,796.1	72.8%	2,854.0	2,191.5	76.8%	4,657.7	3,708.5	79.6%	12,727.4	9,696.1	76.2%
千葉県	917.5	1,001.6	109.2%	490.4	568.2	115.9%	1,028.4	1,026.2	99.8%	2,436.3	2,596.0	106.6%
東京都	242.3	210.4	86.8%	-	-	-	165.1	133.0	80.6%	407.4	343.4	84.3%
山梨県	2,157.8	2,372.2	109.9%	420.6	813.6	193.4%	1,495.4	1,882.0	125.9%	4,073.8	5,067.8	124.4%
長野県	1,951.5	1,813.2	92.9%	1,413.7	1,319.9	93.4%	1,864.9	1,771.7	95.0%	5,230.1	4,904.8	93.8%
新潟県	131.9	124.6	94.5%	-	-	-	-	-	-	131.9	124.6	94.5%
福井県	27.6	41.7	151.1%	14.3	33.3	232.9%	37.6	34.5	91.8%	79.4	109.4	137.8%
岐阜県	803.1	673.5	83.9%	-	-	-	439.0	568.3	129.5%	1,242.1	1,241.8	100.0%
愛知県	80.5	58.4	72.5%	0.0	-	-	17.7	0.0	0.0%	98.2	58.4	59.5%
兵庫県	40.0	55.0	137.5%	0.0	-	-	35.0	65.0	185.7%	75.0	120.0	160.0%
京都府	102.9	82.7	80.4%	-	-	-	40.8	41.5	101.7%	143.7	124.3	86.5%
愛媛県	1,753.0	1,596.1	91.0%	1,005.8	952.2	94.7%	1,186.9	1,141.8	96.2%	3,945.7	3,690.1	93.5%
高知県	162.0	177.7	109.7%	-	-	-	16.0	82.4	515.0%	178.0	260.1	146.1%
熊本県	463.3	459.2	99.1%	-	-	-	340.1	73.6	21.6%	803.4	532.8	66.3%
宮崎県	88.1	113.7	129.1%	-	-	-	95.6	34.4	36.0%	183.7	148.1	80.6%
鹿児島県	46.6	82.0	176.0%	43.3	77.0	177.8%	57.5	71.0	123.5%	147.4	230.0	156.0%
全国計	60,604.8	55,175.0	91.0%	40,749.3	35,856.6	88.0%	66,912.4	57,708.9	86.2%	168,266.4	148,740.5	88.4%

資料：(一財)大日本蚕糸会調査

Source: The Dainippon Silk Foundation

## (6) 蚕品種別蚕種製造数量の推移

## Production by Sort of Silk-Worm Eggs

Item	Year	2011年 (平成23年)		2012年 (平成24年)		2013年 (平成25年)		2014年 (平成26年)	
		箱 box	割合 rate %						
錦秋1号 × 鐘和1号		2,729	24.6	2,806	27.6	2,450	21.9	3,278	33.4
錦秋 × 鐘和月		2,100	19.0	1,818	17.8	3,221	28.8	1,754	15.7
春嶺 × 鐘		1,002	9.0	838	8.2	1,871	16.7	1,116	10.0
ぐんま200号		1,388	12.5	1,443	14.2	1,125	10.1	1,104	9.9
春嶺1号 × 鐘月1号		1,419	12.8	1,175	11.5	380	3.4	872	7.8
松岡 × 姫		300	2.7	340	3.3	547	4.9	350	3.1
かいりょう × あけぼの丸		435	3.9	416	4.1	166	1.5	140	1.3
小石 × 丸		72	0.6	67	0.7	76	0.7	134	1.2
新小石 × 丸		396	3.6	324	3.2	317	2.8	129	1.2
プー × 一		66	0.6	64	0.6	76	0.7	128	1.1
ぐんま × 細		76	0.7	70	0.7	47	0.4	126	1.1
白蘭 × 黄		77	0.7	93	0.9	64	0.6	103	0.9
いろど × 金		134	1.2	55	0.5	85	0.8	92	0.8
朝日 × 東		50	0.5	50	0.5	111	1.0	76	0.7
改蚕 × 小石丸		78	0.7	33	0.3	67	0.6	58	0.5
技研 × 11号		52	0.5	36	0.4	48	0.4	52	0.5
山東3眠 × C5・507						53	0.5	42	0.4
白世 × 麗						7	0.1	33	0.3
紀二 × 金		132	1.2	95	0.9	92	0.8	31	0.3
大秋 × 黄						71	0.6	23	0.2
黄光 × 竜		5	0.0			63	0.6	23	0.2
黄玉 × 小		15	0.1	33	0.3	42	0.4	22	0.2
緑極 × 2		22	0.2	15	0.1	17	0.2	20	0.2
極細 × 1		5	0.0	7	0.1	41	0.4	20	0.2
Nk × Cu1				15	0.1	21	0.2	18	0.2
太白 × 長		13	0.1	28	0.3	49	0.4	10	0.1
青支21号 × 支21		2	0.0					8	0.1
支21号 × 支21		8	0.1	7	0.1	6	0.1	5	0.0
N5 × N6		6	0.1	4	0.0	4	0.0	4	0.0
極美 × 黄								4	0.0
玉細 × 3								3	0.0
緑蘭 × 1		62	0.6	27	0.3	33	0.3	2	0.0
鷹 × 山		20	0.2	5	0.0	9	0.1		
支108号 × 青		7	0.1	7	0.1	8	0.1		
山東3眠 × C5・505						4	0.0		
青熟 × 中515号		2	0.0	2	0.0	2	0.0		
又昔 × 中515号						1	0.0		
芙蓉 × つくばね		180	1.6	143	1.4				
はく × つくばね		22	0.2	80	0.8				
朝日 × つくばね		80	0.7	61	0.6				
改琉球 × 黄				10	0.1				
山中 × 蚕		2	0.0	7	0.1				
山東3眠 × C				7	0.1				
中515号 × 又		2	0.0	2	0.0				
諸桂 × 紹		1	0.0	1	0.0				
鬼縮 × 中515		1	0.0	1	0.0				
上州 × 絹		86	0.8						
鐘光 × 黄		30	0.3						
秋花 × 銀		3	0.0						
合計		11,080	100.0	10,185	100.0	11,174	100.0	9,808	100.0

資料：(一財)大日本蚕糸会調査。

Source : The Dainippon Silk Foundation.

## (7) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量 Production (A)	輸入数量 Imports (B)	輸出数量 Exports (C)	国内引渡数量 Domestic Deliveries (D)	期末在庫数量 Ending Stocks (E)	輸入数量 Imports (F)	輸出数量 Exports (G)	輸入数量 Imports (H)	輸出数量 Exports (I)
	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
暦年 Calendar Year									
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,928	8,261
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,514	568	12,826	7,586
2007	1,747	12,601	—	15,624	8,080	19,439	404	11,409	7,186
2008	1,588	15,212	270	20,026	4,584	22,636	466	11,696	7,131
2009	1,152	12,075	133	13,623	4,055	16,657	387	9,028	6,271
2010	882	12,207	595	13,220	3,329	16,306	324	8,930	6,302
2011	731	9,323	578	10,349	2,456	17,526	427	8,422	6,229
2012	506	10,032	419	10,274	2,180	16,179	320	7,218	5,545
2013	409	9,332	292	9,919	1,712	15,844	426	6,662	5,431
2014	446	8,235	14	8,726	1,653	14,820	330	6,098	5,125
2013 —									
1	38	958	0	1,014	2,162	1,744	11	582	356
2	32	906	0	818	2,282	1,138	13	505	409
3	36	1,148	122	912	2,432	1,337	44	456	525
4	36	0	2	565	1,901	1,552	16	601	485
5	35	1,314	0	969	2,281	1,628	23	679	483
6	36	926	0	977	2,266	1,175	21	592	479
7	28	611	0	702	2,203	1,326	66	671	461
8	19	758	168	715	2,097	1,288	61	501	416
9	26	566	0	743	1,946	918	68	447	403
10	40	855	0	934	1,907	1,354	45	567	465
11	42	491	0	739	1,701	1,351	19	570	500
12	41	800	0	830	1,712	1,033	40	491	450
2014 —									
1	30	776	0	679	1,839	1,579	13	684	324
2	39	591	0	582	1,887	677	21	296	485
3	35	1,055	10	976	1,991	1,338	15	487	511
4	42	270	0	547	1,756	1,392	30	474	521
5	41	927	0	725	1,999	1,332	26	570	486
6	45	869	0	946	1,967	1,355	30	643	380
7	39	599	0	728	1,877	1,311	45	553	429
8	24	548	0	663	1,786	1,203	25	475	362
9	32	591	0	681	1,728	1,411	41	422	359
10	43	748	0	794	1,725	1,121	22	510	447
11	34	667	0	784	1,642	1,008	36	446	392
12	43	600	3	629	1,653	1,094	27	534	428
2015 —									
1	35	722	0	663	1,747	1,422	14	449	380
2	44	614	0	647	1,758	1,045	7	539	342
3	37	802	0	686	1,911	693	17	271	469
4	38	0	0	531	1,418	1,165	27	461	428
5	29	822	0	719	1,550	1,591	50	529	479
6	37	628	0			1,293	32	462	432
7	30								

資料：(A)(C)(D)(E)農林水産省生産局調査（～2010.3）、中央蚕糸協会及び日本生糸問屋協会（2010.4～2012.3）、中央蚕糸協会（2012.12～）。(B)財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F)(G)(H)(I)財務省関税局調査。

備考：1. 国内引渡数量(D)=[前月在庫数量+(A)+(B)]-[C)+(E)]。  
2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。  
3. (D)と(E)は2012年11月までと同年12月以降調査方法が変更したため連続性はない。

Source：(A)(C)(D)(E)The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries（～2010.3）、Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11)、Central Raw Silk As(2012.12～)。

(B)The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F)(G)(H)(I)The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Domestic deliveries(D)={Stock at end of the previous month+(A)+(B)}-[C)+(E)].

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (8) 生糸の織度別生産数量の推移

## Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	生 糸 Raw Silk					
	計 Total	18デニール以下 17/19or 17/19 finer	21デニール 20/22	27デニール 26/28	31デニール 30/32	その他 Others
暦 年 Calendar Year						
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
2011	731	1	188	249	89	204
2012	506	—	149	202	73	82
2013	409	—	109	105	57	138
2014	447	—	114	116	62	155
2012 -						
5	53	—	23	8	13	9
6	49	—	15	29	0	5
7	36	—	11	10	4	11
8	24	—	8	12	0	4
9	33	—	5	21	0	7
10	39	—	14	14	4	7
11	36	—	18	16	0	2
12	43	—	10	21	5	7
2013 -						
1	38	—	16	3	10	9
2	32	—	6	12	5	9
3	36	—	10	15	3	8
4	36	—	7	13	6	10
5	35	—	8	9	9	9
6	36	—	8	13	0	15
7	28	—	8	5	1	14
8	19	—	7	1	0	11
9	26	—	13	1	2	10
10	40	—	9	6	11	14
11	42	—	9	12	6	15
12	41	—	8	15	4	14
2014 -						
1	30	—	9	3	2	16
2	39	—	10	4	0	25
3	35	—	14	6	6	9
4	42	—	7	11	7	17
5	41	—	9	17	5	10
6	45	—	13	12	5	15
7	39	—	13	8	8	10
8	24	—	1	15	0	8
9	32	—	9	10	1	12
10	43	—	10	8	11	14
11	34	—	9	12	9	4
12	43	—	10	10	8	15
2015 -						
1	35	—	10	12	6	7
2	44	—	6	12	12	14
3	37	—	17	11	4	5
4	38	—	16	2	8	12
5	29	—	13	4	0	12
6	37	—	15	6	2	14
7	30	—	13	6	0	11

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3)。Central Raw Silk Association (2010.4～)。

Remarks：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

## (9) 絹需給の推移 (生糸量換算試算)

## Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)  
(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④						期末 在庫 Ending Stocks ④	
	期初 在庫 Opening Stocks	生産 Produc- tion	輸入 Import					輸出 Export					内需 Domestic Demand ②-③			
			計 Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second	計 ③ Total	生糸 Raw Silk	絹糸 Silk Yarn	織物 Fabrics	二次 The Second				
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	182	16	0	0	15	1	166	43
2011	227	43	1	183	9	18	14	142	180	16	0	0	15	1	164	47
2012	230	47	1	182	10	16	14	142	184	15	0	0	14	1	169	46
2013	248	46	0	202	9	16	13	164	203	14	0	0	13	1	189	45
2014	225	45	0	180	8	15	12	145	180	14	0	0	13	1	166	45
対前年比 2014/13(%)	91	98	—	89	89	94	92	88	89	100	—	—	100	100	88	100

資料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報

注) 2013年から期末在庫を45千俵とする。

Source：“Silk balance and price situation monthly”, “Trade Statistics”

## (10) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

## Breakdown of Silk Second Products Imports (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

(Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item	暦年 Calendar Year	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	前年比%	構成比%
									y/y	ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments	2.5	1.8	2.8	2.2	2.4	3.1	3.4	109.7	2.3
	女子用外衣類 Women's upper garments	40.2	37.1	38.4	51.2	50.0	63.5	53.4	84.1	36.9
	うちブラウス Blouse of the inside	3.4	2.8	2.4	2.0	2.2	6.0	2.9	48.3	2.0
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth	1.6	1.1	1.0	1.4	1.5	1.9	2.0	105.3	1.4
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth	16.3	13.5	13.9	15.5	15.5	20.5	21.9	106.8	15.1
	ハンカチ Handkerchief	0.5	0.4	0.3	0.5	0.3	0.4	0.3	75.0	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves	2.9	2.5	2.2	2.2	2.3	2.2	2.0	90.9	1.4
	ネクタイ類 Ties	20.8	18.2	18.1	14.5	12.8	11.9	9.7	81.5	6.7
	メリヤス、クロセス編物 Knit. kurose knitting	19.8	15.9	17.9	18.6	22.7	26.1	20.4	78.2	14.1
	その他の洋装類 Other western clothes	23.7	22.0	21.0	20.2	19.1	18.9	17.8	94.2	12.3
洋装類計 Western clothes subtotal	128.3	112.4	115.6	126.3	126.6	148.5	130.9	88.1	90.3	
和装類計 Japanese clothes subtotal	14.7	15.9	14.5	12.5	11.8	13.0	12.2	93.8	8.4	
うち絹製の帯小物等 Silk obi accessories of the inside	12.1	13.9	12.5	10.1	10.1	11.0	10.1	91.8	7.0	
その他 Others	2.4	1.9	2.9	3.1	3.2	2.3	1.8	78.3	1.2	
合計 Total		145.4	130.2	133.0	141.9	141.6	163.8	144.9	88.5	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」

注)：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"

Note: Total may not added up due to round off.

## (11) 製糸工場の原料繭需給

## Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month	項 目 Item	総 計 Grand Total		
		受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year				
	2005	806	830	589
	2006	600	645	541
	2007	548	581	505
	2008	393	518	378
	2009	308	385	313
	2010	240	299	263
	2011	189	162	237
	2012	185	209	183
	2013	142	137	188
	2013 —			
	1	0	11	172
	2	1	10	163
	3	0	13	150
	4	0	14	136
	5	3	13	126
	6	21	11	136
	7	38	10	164
	8	16	7	173
	9	7	8	172
	10	40	13	199
	11	4	13	190
	12	12	14	188
	2014 —			
	1	0	11	177
	2	0	15	162
	3	0	12	150
	4	0	15	135
	5	0	14	121
	6	24	14	131
	7	29	14	146
	8	17	9	154
	9	9	11	152
	10	38	15	175
	11	11	12	174
	12	0	16	158
	2015 —			
	1	0	13	145
	2	0	14	131
	3	0	12	119
	4	0	13	106
	5	0	11	95
	6			
	7			

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。  
中央蚕糸協会(2012.12～)。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).  
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～2012.11).  
Central Raw Silk Association (2012.12～).

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

2. Receipts=(Ending stocks of the current month)+(put in process)-(Ending stocks of the preceding month).

## (12) 製糸工場の操業状況

## Activities of Reeling Mills

年 月 Year & Month	項 目 Item	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers
			運転可能 Operable	運 転 Operating			
暦 年 Calendar Year							
	2005	10	203	126	62	269	111
	2006	9	114	94	82	266	103
	2007	8	112	93	83	266	100
	2008	7	112	90	80	266	90
	2009	7	118	71	60	259	82
	2010	7	118	58	49	247	73
	2011	7	110	57	52	252	65
	2012	7	110	39	35	243	56
	2013	7	110	38	35	249	57
	2014	7	110	38	35	261	58
	2013 — 1	7	110	41	37	20	55
	2	7	110	36	33	21	55
	3	7	110	35	32	22	55
	4	7	110	36	33	22	58
	5	7	110	33	30	22	60
	6	9	110	34	31	18	67
	7	8	110	25	23	23	61
	8	6	110	16	15	20	53
	9	7	110	33	30	14	59
	10	7	110	36	33	23	59
	11	7	110	37	34	22	57
	12	7	110	38	35	22	57
	2014 — 1	6	110	38	35	20	57
	2	6	110	37	34	23	57
	3	6	110	37	34	22	57
	4	7	110	37	34	23	57
	5	7	110	37	34	22	57
	6	9	110	38	35	23	62
	7	9	110	39	35	20	62
	8	6	110	26	24	23	50
	9	7	110	38	35	19	58
	10	8	110	38	35	23	62
	11	8	110	37	34	21	62
	12	7	110	38	35	22	58
	2015 — 1	7	110	37	34	20	57
	2	7	110	39	35	21	57
	3	6	110	38	35	23	61
	4	6	110	38	35	23	60
	5	7	110	37	34	20	60
	6	8	110	39	35	23	60
	7	8	110	35	32	22	60

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～2012.11)。  
中央蚕糸協会及び(一財)大日本蚕糸会(2012.12～)。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。  
2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。  
3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).  
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).  
Central Raw Silk Association(2012.12～)

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.  
2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.  
3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(13) 生糸在庫数量の内訳  
Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item	総計 Grand Total	一 般 在 庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計 Total	製糸工場 Filatures Mills	生糸市場 売買業者 Dealers	生糸市場外 売買業者 Domestic Dealers	生糸輸出 入業者 Ex and Importers	受入 数量 Accepts	引渡 数量 Deliveries	在庫数量 Ending Stocks
暦年 Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	—	2,354	656			
2011	2,456	2,456	288	—	1,651	517			
2012	2,180	2,180	124	—	2,056				
2013	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014	1,653	1,653	78	—	1,575				
生糸年度 (6~5) Silk Year									
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,205	4,205	376	15	3,266	515			
2009	3,661	3,661	358	—	2,795	508			
2010	2,999	2,999	285	—	2,014	700			
2011	2,348	2,348	304	—	1,481	583			
2012	2,402	2,402	251	—	2,151				
2013	2,266	2,266	137	—	2,129				
2013 —									
1	2,162	2,162	136	—	2,026				
2	2,282	2,282	143	—	2,139				
3	2,432	2,432	136	—	2,296				
4	1,901	1,901	137	—	1,764				
5	2,281	2,281	130	—	2,151				
6	2,266	2,266	137	—	2,129				
7	2,203	2,203	118	—	2,085				
8	2,097	2,097	110	—	1,987				
9	1,946	1,946	97	—	1,849				
10	1,907	1,907	103	—	1,804				
11	1,701	1,701	110	—	1,591				
12	1,712	1,712	110	—	1,602				
2014 —									
1	1,839	1,839	116	—	1,723				
2	1,887	1,887	114	—	1,773				
3	1,991	1,991	78	—	1,913				
4	1,756	1,756	85	—	1,671				
5	1,999	1,999	99	—	1,900				
6	1,967	1,967	88	—	1,879				
7	1,877	1,877	79	—	1,798				
8	1,786	1,786	74	—	1,712				
9	1,728	1,728	63	—	1,665				
10	1,725	1,725	67	—	1,658				
11	1,642	1,642	66	—	1,576				
12	1,653	1,653	78	—	1,575				
2015 —									
1	1,747	1,747	74	—	1,673				
2	1,758	1,758	77	—	1,681				
3	1,911	1,911	80	—	1,831				
4	1,418	1,418	75	—	1,343				
5	1,550	1,550	83	—	1,467				
6			88	—					
7			89	—					

資料：農林水産省生産局調査（～2010.3）。中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010.4～2012.11）。中央蚕糸協会（2012.12～）  
Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010.3).  
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010.4～2012.11).  
Central Raw Silk Association (2012.12～).

## (14) 蚕糸関係品目別輸入状況

## Breakdown of Silk-Related Products Imports

	単位 Unit	平成27年(2015)		平成26年 (2014)	平成25年 (2013)	平成24年 (2012)	平成23年 (2011)	平成22年 (2010)	平成21年 (2009)	26年/25年 2014/13 (%)
		(6月) Jun.	(累計) Accumulate d Total							
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bale s of 60kg	628	3,589	8,235	9,332	10,032	9,323	12,207	12,075	88.2
絹糸 Silk Yarn	俵 Bale s of 60kg	1,293	7,210	14,820	15,844	16,179	17,526	16,306	16,647	93.5
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bale s of 60kg	0	25	48	169	81	62	82	149	28.4
繭 Cocoon	kg	1,000	1,000	10,200	8,300	6,250	4,050	13,158	9,800	122.9
真綿 Floss Silk	kg	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ペニ Peigne	kg	-	-	-	-	-	-	-	35,331	-
くず繭 Waste Cocoon	kg	870	3,644	11,728	13,314	6,457	10,885	9,395	33,450	88.1
絹ノイル Silk Noil	kg	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	20,742	46,630	101,655	92,024	107,023	98,732	134,852	125,999	110.5
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	21,612	50,274	113,383	105,338	107,022	109,617	144,247	159,449	107.6
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	22,750	189,521	453,450	438,786	482,523	394,920	451,219	335,710	103.3
絹紡糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	12,710	73,728	141,707	152,749	140,188	118,404	104,374	97,554	92.8
絹織物 Silk Fabrics	m <sup>2</sup>	462,856	2,762,706	6,097,501	6,661,585	7,218,094	8,422,094	8,930,391	9,027,911	91.5

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(15) 生糸の原産国別輸入数量  
Raw Silk Imports

(単位：60kg 俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

年 月 Year & Month	国 名 Country	計 Total	中国 China	ブラジル Brazil	ベトナム Vietnam	タイ Thailand	その他 Others
暦年 Calendar Year							
2007		12,858	8,804	3,848	-	206	-
2008		15,242 (137)	10,969 (102)	4,152 (35)	-	122	-
2009		12,085 (72)	8,170 (51)	3,855 (21)	-	41	-
2010		12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	-	32	-
2011		9,323 (63)	7,170 (32)	2,136 (30)	-	5	-
2012		10,032 (49)	8,628 (36)	1,403 (13)	-	-	-
2013		9,332 (98)	8,047 (59)	1,275 (34)	10 (5)	-	-
2014		8,241 (75)	7,001 (75)	1,143 (15)	70	7	20
2013	- 1	958 (10)	918 (10)	40	-	-	-
	2	906 (9)	698 (7)	207 (2)	-	-	-
	3	1,148 (17)	1,083 (17)	65	-	-	-
	4	-	-	-	-	-	-
	5	1,314 (25)	1,031 (15)	278 (10)	5	-	-
	6	925	841	84	-	-	-
	7	611 (2)	539	72 (2)	-	-	-
	8	758 (15)	577	176 (10)	5 (5)	-	-
	9	566	546	20	-	-	-
	10	855 (15)	689 (10)	166 (5)	-	-	-
	11	491	416	75	-	-	-
	12	800 (6)	708	92 (6)	-	-	-
2014	- 1	776	687	88	-	1	-
	2	591 (2)	465 (2)	107	-	-	20
	3	1,055 (13)	973 (13)	76	5	-	-
	4	270 (4)	169 (4)	100	-	2	-
	5	927 (20)	795 (20)	132 (5)	-	-	-
	6	869 (7)	683 (7)	133 (10)	50	2	-
	7	599	522	75	-	2	-
	8	548	459	79	10	-	-
	9	591	480	111	-	-	-
	10	748 (14)	660 (14)	83	5	-	-
	11	667 (5)	564 (5)	103	-	-	-
	12	600 (10)	544 (10)	56	-	-	-
2015	- 1	722	510	212	-	-	-
	2	614 (2)	589 (2)	15	10	-	-
	3	802 (2)	769	33 (2)	-	-	-
	4	-	-	-	-	-	-
	5	822 (3)	689 (3)	133	-	-	-
	6	629 (23)	572 (23)	47	10	-	-

資料：財務省関税局調査

備考：1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. ( ) 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for douppion silk imports.

(16) 絹糸の原産国別輸入数量  
Silk Yarn Imports

(単位：60kg俵)  
(Unit: Bales of 60kg)

年月 Year & Month	国名 Country	計 Total	韓国 S Korea	中国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦年 Calendar Year									
2008		22,636	143	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009		16,647	—	9,656	5,096	12	—	1,742	137
2010		16,306	—	9,675	4,161	16	—	1,716	205
2011		17,526	—	10,384	5,129	7	—	1,131	212
2012		16,179	—	9,924	4,908	15	—	1,109	223
2013		15,844	—	9,148	5,783	33	—	878	3
2014		14,820	—	8,190	5,733	8	—	867	22
2012 —	1	1,590	—	1,075	353	—	—	80	80
	2	758	—	378	216	1	—	162	—
	3	1,143	—	747	281	2	—	113	—
	4	1,092	—	662	326	—	—	103	—
	5	1,531	—	1,001	328	—	—	124	78
	6	1,316	—	727	514	1	—	75	—
	7	1,554	—	907	488	—	—	97	53
	8	1,499	—	897	561	—	—	41	—
	9	1,365	—	773	506	1	—	73	12
	10	1,523	—	953	456	3	—	112	—
	11	1,612	—	982	568	5	—	56	—
	12	1,207	—	824	310	1	—	71	—
2013 —	1	1,744	—	1,080	612	—	—	52	—
	2	1,138	—	616	429	—	—	93	—
	3	1,337	—	940	342	5	—	50	—
	4	1,552	—	880	574	—	—	95	3
	5	1,629	—	1,012	545	1	—	71	—
	6	1,175	—	660	446	3	—	67	—
	7	1,326	—	729	555	4	—	38	—
	8	1,288	—	750	419	1	—	118	—
	9	918	—	489	413	1	—	15	—
	10	1,354	—	682	541	1	—	131	—
	11	1,351	—	676	576	18	—	81	—
	12	1,033	—	635	331	1	—	66	—
2014 —	1	1,579	—	820	692	—	—	67	—
	2	677	—	313	271	1	—	91	—
	3	1,338	—	922	371	—	—	45	—
	4	1,392	—	744	556	—	—	90	2
	5	1,332	—	806	456	—	—	69	—
	6	1,355	—	813	471	1	—	71	—
	7	1,311	—	720	531	1	—	59	—
	8	1,203	—	630	498	—	—	56	19
	9	1,411	—	762	560	3	—	86	—
	10	1,121	—	433	600	2	—	86	—
	11	1,008	—	582	326	1	—	99	—
	12	1,094	—	647	402	1	—	45	—
2015 —	1	1,422	—	788	529	—	—	105	—
	2	1,045	—	573	461	0	0	11	—
	3	693	—	405	268	—	0	21	—
	4	1,165	—	745	332	—	—	87	1
	5	1,591	—	951	610	—	—	31	—
	6	1,293	—	679	564	—	—	48	—

資料：財務省関税局調査。

備考：kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source：The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks：Country volume may not add up the total volume due to round off.

## (17) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入数量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵、円/Kg

Unit: bale of 60kg, yen/kg

項目 Item	輸入生糸（通関ベース）				輸入絹糸（通関ベース）					
	Raw Silk Imprt				Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
暦年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,627	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,120	2,740	3,965	3,059	9,656	2,840	1,742	3,611	5,116	3,034
2010	8,411	3,667	3,706	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,606	3,411
2011	7,170	4,469	2,136	5,492	10,384	4,707	1,722	5,398	5,429	4,402
2012	8,628	4,293	1,404	5,290	9,924	4,383	1,110	6,078	4,908	4,493
2013	8,047	5,954	1,275	7,420	9,148	6,150	878	8,409	5,783	6,091
2014	6,925	6,449	1,127	8,362	8,190	6,609	867	9,480	5,743	6,794
2013 - 1	918	5,103	40	6,180	1,080	5,172	52	7,079	612	5,084
2	698	6,029	207	6,284	616	5,574	93	7,318	429	5,362
3	1,083	5,733	65	6,749	940	5,959	50	7,806	342	5,789
4	-	-	-	-	880	6,106	95	8,026	574	5,974
5	1,031	6,132	278	7,271	1,012	6,311	71	8,405	545	6,105
6	841	6,237	84	7,517	660	6,461	67	8,602	446	6,505
7	539	5,855	72	7,850	729	6,285	38	8,783	555	6,362
8	577	6,223	176	7,869	750	6,469	118	8,807	419	6,392
9	546	6,250	20	8,035	489	6,468	15	8,853	413	6,485
10	689	6,242	166	8,049	682	6,443	131	8,821	541	6,208
11	416	6,178	75	7,918	676	6,480	181	8,878	576	6,508
- 12	708	6,494	93	8,355	635	6,702	66	9,383	331	6,585
2014 - 1	687	6,560	88	8,429	820	6,758	67	9,549	692	6,812
2	463	6,575	107	8,487	313	6,790	91	9,402	271	6,591
3	961	6,433	76	8,230	922	6,543	45	9,366	371	6,977
4	164	6,583	100	8,283	744	6,658	90	9,330	556	6,682
5	775	6,364	127	8,291	806	6,696	69	9,311	466	6,823
6	676	6,392	124	8,224	813	6,336	71	9,296	471	6,756
7	522	6,237	75	8,205	720	6,341	59	9,251	531	6,625
8	459	6,223	79	8,313	630	6,324	56	9,299	498	6,592
9	480	6,264	111	8,302	762	6,471	86	9,336	560	6,733
10	646	6,407	83	8,485	433	6,778	86	9,665	600	6,857
11	559	6,496	103	8,509	582	6,667	99	9,764	326	6,973
12	534	6,944	56	8,760	647	7,173	45	10,322	402	7,220
2015 1	510	6,969	212	8,872	788	7,186	105	10,172	529	7,406
2	587	6,961	15	9,151	573	6,820	11	10,531	461	7,339
3	769	6,896	31	8,760	405	7,053	21	9,943	268	7,931
4	-	-	-	-	745	7,049	87	9,508	332	7,773
5	686	6,836	133	8,493	951	6,794	31	9,392	610	7,325
6	549	6,983	47	8,388	679	7,044	48	9,397	564	7,224

資料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F 価格である。

Source: The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks: A unit price is CIF price.

## (18) 絹織物生産数量

## Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)  
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics									
		広巾織物 Double Width				小巾織物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics		
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先練 (先染) Dyed Yarn			
年 月 Year & Month	暦 年 Calendar Year										
		2003	23,935	8,374	3,801	2,464	2,109	11,509	7,747	3,762	4,052
		2004	21,895	7,510	3,511	2,182	1,817	10,875	7,431	3,444	3,510
		2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
		2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
		2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
		2009	11,472	4,015	1,732	1,193	1,090	5,663	3,449	2,214	1,794
		2010	11,612	3,844	1,510	1,254	1,080	6,212	4,029	2,183	1,556
		2011	10,418	4,105	2,615	198	1,292	4,338	1,615	2,719	1,979
		2012	9,974	4,548	2,482	200	1,875	3,172	1,776	1,395	2,254
		2013	10,062	4,688	2,546	192	1,953	3,039	1,479	1,551	2,334
		2014	9,368	4,536	2,577	153	1,816	2,596	1,274	1,322	2,234
	2013 —	1	818	381	207	16	159	247	120	126	190
		2	829	386	210	16	161	250	122	128	192
		3	849	396	215	16	165	256	125	131	197
		4	883	412	223	17	171	267	130	136	205
		5	842	392	213	16	163	254	124	130	195
		6	877	408	222	17	170	265	129	135	203
		7	900	420	228	17	175	272	132	139	209
		8	716	333	181	14	139	216	105	110	166
		9	746	348	189	14	145	225	110	115	173
		10	887	413	224	17	172	268	130	137	206
		11	859	400	217	16	167	260	126	132	199
		12	856	399	217	16	166	259	126	132	199
	2014 —	1	787	383	218	13	153	217	106	110	188
		2	815	396	226	13	158	224	110	114	195
		3	811	394	225	13	157	223	110	114	194
		4	835	406	231	13	162	230	113	117	200
		5	853	414	236	14	165	234	115	119	204
		6	863	419	239	14	167	237	116	121	206
		7	811	394	225	13	157	223	110	114	194
		8	668	324	185	11	130	184	90	93	160
		9	709	344	196	11	137	195	96	99	169
		10	757	368	210	12	147	208	102	106	181
		11	726	353	201	12	141	200	98	102	173
		12	733	341	185	14	142	221	108	113	170
	2015 —	1	661	321	183	11	128	182	89	93	158
		2	627	305	174	10	122	172	85	88	150
		3	661	321	183	11	128	182	89	93	158
		4	716	348	198	11	138	197	97	100	171
		5	627	305	174	10	122	172	85	88	150
		6	746	363	207	12	145	205	101	104	178

資 料：(一社)日本絹人織織物工業会。

備 考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source : Japan Silk &amp; Rayon Weaver's Association.

Remarks : Spun and mixed fabrics included .

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

## (19)丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

## Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項目 Item	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
	年 月 Year & Month							
暦 年 Calendar Year								
2004	21,895	91.7	1,119,897	95.6	189,426	90.8	780,082	84.6
2005	19,821	90.3	1,058,571	94.5	170,061	92.6	691,780	88.7
2006	18,526	93.5	912,027	86.2	132,448	78.1	598,040	86.4
2007	15,479	83.6	712,560	78.1	97,204	73.0	977,719	163.5
2008	13,914	89.9	656,919	92.2	88,401	90.8	867,490	88.7
2009	9,930	71.4	503,365	76.6	73,681	84.0	746,538	86.1
2010	11,661	117.4	515,721	102.5	84,023	110.0	859,244	115.1
2011	10,319	88.5	475,989	92.3	70,803	84.3	692,943	80.6
2012	9,944	96.4	451,503	94.9	62,910	88.9	645,679	92.9
2013	10,062	101.2	433,451	96.0	55,792	88.7	630,586	97.7
2014	9,368	93.1	400,192	92.3	53,174	95.3	600,917	95.3
2013 — 1	818	102.1	25,024	83.7	4,453	93.0	54,617	105.4
2	829	101.3	41,930	109.3	4,632	82.2	52,253	80.3
3	849	102.0	37,110	98.3	4,306	81.2	55,771	89.7
4	883	106.1	38,904	92.1	5,498	97.9	61,790	107.1
5	842	97.2	34,916	104.9	4,794	78.5	59,581	104.8
6	877	98.9	40,887	94.6	4,694	88.0	49,312	103.6
7	900	103.9	36,717	91.8	5,023	84.1	46,098	97.5
8	716	96.4	30,707	96.6	3,564	81.9	43,162	94.1
9	746	103.8	39,079	98.7	4,974	100.4	45,834	102.1
10	887	100.8	32,162	87.6	4,960	82.8	53,507	95.9
11	859	97.6	39,338	102.7	4,170	83.5	56,868	100.6
12	856	100.8	36,677	90.9	4,724	96.3	51,793	95.8
2014 1	787	96.2	24,533	98.0	4,530	101.7	50,063	91.7
2	815	98.3	38,740	92.4	4,396	94.9	54,843	105.0
3	811	95.5	33,931	91.4	4,903	113.9	62,781	112.6
4	835	94.6	34,069	87.6	4,841	88.1	53,582	86.7
5	853	101.3	33,576	96.2	4,241	88.5	50,515	84.8
6	863	98.4	36,794	90.0	4,980	106.1	47,469	96.3
7	811	90.1	33,951	92.5	4,374	87.1	47,632	103.3
8	668	93.3	30,098	98.0	3,355	94.1	42,905	99.4
9	709	95.0	34,688	88.8	4,908	98.7	50,566	108.9
10	757	85.3	31,587	98.2	4,417	89.1	50,476	94.3
11	726	84.5	35,611	90.5	4,179	100.2	44,217	77.8
12	733	85.6	32,614	88.9	4,050	85.7	45,868	88.6
2015 1	661	84.0	23,759	96.8	3,624	80.0	47,602	95.1
2	627	76.9	34,789	89.8	3,895	88.6	43,469	79.3
3	661	81.5	31,168	91.9	4,472	91.2	49,386	78.7
4	716	85.7	31,316	91.9	4,117	85.0	50,797	94.8
5	627	73.5	29,814	88.8	3,105	73.2	43,367	85.8
6	746	86.4	31,254	84.9	4,011	80.5	41,884	88.2
7			28,297	83.3	3,545	81.0		

資料：絹織物生産数量は(一社)日本絹織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は各産地組合の発表による。

備考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash livings are included in sash production.

## (20) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

## Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing & footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
年月 Year & Month												
暦年Calendar Year												
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 1.7	11,994	▲ 4.2	261	▲ 12.7	4,622	▲ 5.5	2,468	▲ 5.0	1,098	▲ 3.1
2010	290,244	▲ 0.5	11,499	▲ 4.1	245	▲ 6.1	4,459	▲ 3.5	2,353	▲ 4.7	1,069	▲ 2.6
2011	282,966	▲ 2.5	11,382	▲ 1.0	270	10.2	4,273	▲ 4.2	2,403	2.1	1,100	2.9
2012	286,169	1.1	11,453	0.6	246	▲ 8.9	4,305	0.7	2,410	0.3	1,087	▲ 1.2
2013	290,455	1.5	11,756	2.6	177	▲ 28.3	4,583	6.4	2,504	3.9	1,066	▲ 2.0
2014	291,194	0.3	11,983	1.9	227	28.3	4,617	0.7	2,518	0.6	1,097	3.0
2013 - 1	288,934	2.1	12,301	▲ 6.4	28	▲ 89.8	5,208	▲ 6.0	2,592	▲ 3.3	1,110	▲ 1.4
2	268,099	0.1	9,117	3.3	194	▲ 49.2	4,053	9.5	1,647	7.6	738	0.8
3	316,166	4.1	13,271	9.1	138	▲ 7.3	6,177	11.2	2,357	16.1	848	▲ 3.2
4	304,382	0.8	11,762	0.6	134	41.1	4,557	3.6	2,512	3.2	868	▲ 7.1
5	282,366	▲ 1.9	12,400	7.0	231	86.3	4,077	7.3	2,956	6.7	1,142	6.5
6	269,418	▲ 0.1	12,139	8.3	419	147.9	4,088	12.7	2,933	6.3	1,130	▲ 3.3
7	286,098	1.0	11,876	▲ 0.4	194	▲ 18.8	4,091	4.3	3,174	0.4	1,224	▲ 4.8
8	284,646	▲ 0.5	8,829	2.3	71	▲ 81.4	2,857	6.4	2,193	6.4	984	2.5
9	280,692	5.2	9,180	8.8	182	▲ 3.2	3,457	19.2	1,936	3.2	807	▲ 3.6
10	290,676	2.3	12,483	2.4	246	0.8	5,123	10.5	2,595	1.4	1,043	▲ 7.6
11	279,546	2.1	13,741	▲ 0.5	94	▲ 82.8	5,663	5.0	2,593	2.0	1,404	1.6
12	334,433	2.7	13,974	1.2	187	8.7	5,639	1.2	2,554	3.2	1,490	▲ 2.4
2014 - 1	297,070	2.8	14,736	19.8	632	2,157.1	6,424	23.3	2,868	10.6	1,100	▲ 0.9
2	266,610	▲ 0.6	8,384	▲ 8.0	110	▲ 43.3	3,573	▲ 11.8	1,484	▲ 9.9	665	▲ 9.9
3	345,443	9.3	14,955	12.7	168	21.7	6,719	8.8	2,534	7.5	1,166	37.5
4	302,141	▲ 0.7	11,308	▲ 3.9	79	▲ 41.0	4,330	▲ 5.0	2,475	▲ 1.5	866	▲ 0.2
5	271,411	▲ 3.9	12,145	▲ 2.1	238	3.0	3,923	▲ 3.8	2,913	▲ 1.5	1,133	▲ 0.8
6	272,791	1.3	12,141	0.0	322	▲ 23.2	4,130	1.0	2,785	▲ 5.0	1,184	4.8
7	280,293	▲ 2.0	11,262	▲ 5.2	352	81.4	3,658	▲ 10.6	2,969	▲ 6.5	1,186	▲ 3.1
8	282,124	▲ 0.9	9,307	5.4	226	218.3	3,105	8.7	2,147	▲ 2.1	981	▲ 0.3
9	275,226	▲ 1.9	9,178	▲ 0.0	169	▲ 7.1	3,197	▲ 7.5	2,153	11.2	809	0.2
10	288,579	▲ 0.7	11,988	▲ 4.0	221	▲ 10.2	4,649	▲ 9.3	2,569	▲ 1.0	1,053	1.0
11	280,271	0.3	14,110	2.7	119	26.6	5,959	5.2	2,748	6.0	1,324	▲ 5.7
12	332,363	▲ 0.6	14,286	2.2	82	▲ 56.1	5,734	1.7	2,574	0.8	1,702	14.2
2015 - 1	289,847	▲ 2.4	12,881	▲ 12.6	188	▲ 70.3	5,921	▲ 7.8	2,332	▲ 18.7	1,102	0.2
2	265,632	▲ 0.4	8,788	4.8	117	6.4	3,885	8.7	1,711	15.3	610	▲ 8.3
3	317,579	▲ 8.1	13,185	▲ 11.8	104	▲ 38.1	6,179	▲ 8.0	2,341	▲ 7.6	810	▲ 30.5
4	300,480	▲ 0.5	12,493	10.5	155	96.2	4,759	9.9	2,532	2.3	881	1.7
5	286,433	5.5	12,499	2.9	101	▲ 57.6	4,191	6.8	2,975	2.1	1,127	▲ 0.5
6	268,652	▲ 1.5	10,737	▲ 11.6	155	▲ 51.9	3,603	▲ 12.8	2,750	▲ 1.3	987	▲ 16.6

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4項目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source:Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks:Clothing&amp;footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts&amp;sweaters and other items.

Year value is mean of the each month

## 一資料・海外一

### (1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2005年	2006年	2007年
		トン	トン	トン
日本	Japan	626	505	433
中国	China	621,461	739,715	779,261
インド	India	126,261	135,462	132,038
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	7,146	8,051	8,617
タイ	Thailand	10,650	10,100	1,785
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	2,543	2,104	1,665
トルコ	Turkey	170	350	130
インドネシア	Indonesia	691	339	470
ブルガリア	Bulgaria	42	65	55
ギリシャ	Greece	70	100	104
フィリピン	Philippines	14.4	16	9
シリア	Syria	5.5	3	2.5
主要国の計	Total	810,680	937,810	965,570

区 分		2008年	2009年	2010年
		トン	トン	トン
日本	Japan	382	327	265
中国	China	683,387	575,299	617,915
インド	India	124,834	131,661	131,924
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	6,266	4,835	4,439
タイ	Thailand	7,700	4,655	4,655
ウズベキスタン	Uzbekistan	25,760	25,896	20,000
イラン	Iran	1,185	1,185	1,185
トルコ	Turkey	126	140	140
インドネシア	Indonesia	273	133	161
ブルガリア	Bulgaria	48	51	75
ギリシャ	Greece	100	100	100
フィリピン	Philippines	6	4	4
シリア	Syria	3	4	4
主要国の計	Total	871,070	765,290	801,867

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会(ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

## (2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区分		2005年		2006年		2007年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	151	2,500	119	2,000	105	1,800
中国	China	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000	108,420	1,807,000
インド	India	15,445	257,400	16,525	275,400	16,245	270,800
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,285	21,400	1,387	23,100	1,220	20,300
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,080	18,000	760	12,700
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	395	6,600	324	5,400	253	4,200
トルコ	Turkey	30	500	25	400	20	300
インドネシア	Indonesia	91	1,500	47	800	65	1,100
ブルガリア	Bulgaria	6	100	5	100	7.5	100
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1.1	0	1.6	0	1	0
シリア	Syria	0.7	0	0.5	0	0	0
主要国の計	Total	109,940	1,832,300	115,973	1,933,100	130,451	2,174,200

区分		2008年		2009年		2010年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	95	1,600	69	1,200	53	900
中国	China	98,620	1,643,700	92,455	1,540,900	95,778	1,596,300
インド	India	15,610	260,200	16,322	272,000	16,360	272,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,177	19,600	811	13,500	770	12,800
タイ	Thailand	1,100	18,300	665	11,100	665	11,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,417	23,600	2,447	40,800	2,100	35,000
イラン	Iran	180	3,000	180	3,000	180	3,000
トルコ	Turkey	15	300	20	300	20	300
インドネシア	Indonesia	37	600	19	300	20	300
ブルガリア	Bulgaria	7.5	100	6.3	100	9.4	160
ギリシャ	Greece	4	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0.4	0	0.6	0	0.6	0
主要国の計	Total	120,514	2,008,600	115,250	1,920,800	118,211	1,970,160

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド纖維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSEDA)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 シェアの大きいベトナムは、2005年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSEDA).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(3) 中国繭絲綢交易市場における各種シルク現物価格  
Spot Price of Various Silk Goods

2015年6月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		103.60 ~ 114.55	2,072 ~ 2,291
2	玉繭(double cocoon)		89.98 ~ 96.48	1,800 ~ 1,930
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	100.10 ~ 110.50	2,002 ~ 2,210
4	ビス(bisu)		80.60 ~ 88.15	1,612 ~ 1,763
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	316.53 ~ 321.35	6,331 ~ 6,427
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	318.00 ~ 321.75	6,360 ~ 6,435
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	305.75 ~ 310.75	6,115 ~ 6,215
8	玉糸(doupion silk)	110d	310.98 ~ 321.73	6,220 ~ 6,435
9	土糸(native silk)	110d	283.88 ~ 295.23	5,678 ~ 5,905
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	29.69 ~ 30.69	594 ~ 614
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	26.75 ~ 27.75	535 ~ 555
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	49.00 ~ 50.00	980 ~ 1000
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	49.06 ~ 50.06	981 ~ 1001
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	41.13 ~ 42.13	823 ~ 843
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	34.06 ~ 35.06	681 ~ 701

注:1元=20円

2015年7月 平均 (month average)

区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/kg) (price range)	価格幅(円/kg) (price range)
1	乾繭(dried cocoon)		107.42 ~ 118.40	2,148 ~ 2,368
2	玉繭(double cocoon)		89.64 ~ 95.70	1,793 ~ 1,914
3	キビソ(frison)	(自動機)automatic reel	103.80 ~ 110.94	2,076 ~ 2,219
4	ビス(bisu)		80.66 ~ 87.86	1,613 ~ 1,757
5	生糸(raw silk)	21d、工場検査	311.76 ~ 316.26	6,235 ~ 6,325
6	生糸(raw silk)	21d、検驗局検査	315.44 ~ 320.66	6,309 ~ 6,413
7	生糸(raw silk)	42d、工場検査	307.40 ~ 314.20	6,148 ~ 6,284
8	玉糸(doupion silk)	110d	302.06 ~ 312.88	6,041 ~ 6,258
9	土糸(native silk)	110d	278.42 ~ 288.56	5,568 ~ 5,771
区分 (item)	商品名称 (goods name)	規格 (size)	価格幅(元/メートル) (price range)	価格幅(円/メートル) (price range)
10	羽二重(habutae)	45吋(inch)10匁(mom)	29.67 ~ 30.80	593 ~ 616
11	羽二重(habutae)	45吋(inch)8匁(mom)	26.12 ~ 27.38	522 ~ 548
12	シャンタン(shantung)	45吋(inch)16匁(mom)	48.10 ~ 49.50	962 ~ 990
13	サテン(satin)	45吋(inch)16匁(mom)	47.75 ~ 49.08	955 ~ 982
14	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)13.5匁(mom)	40.00 ~ 41.13	800 ~ 823
15	クレープデシン(crepe de chine)	45吋(inch)12匁(mom)	33.83 ~ 35.03	677 ~ 701

注:1元=20円

資料:中国繭絲綢交易市場(浙江省、嘉興)発表  
Source:China Silk Exchange(Zhejiang Sheng Jia Xing)

**(4)ブラジルの繭・生糸生産数量の推移**  
**Cocoon and Raw Silk Production in Brazil**

シルク年度 Silk Year (9~8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11	3,037 (68%)
2011/12	2,620 (86%)
2012/13	2,608 (99%)
2013/2014	2,563 (98%)
2014/2015 [見込み] [Estimate]	2,764 (108%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	769,903 (95%)	12,832
2011	557,633 (72%)	9,294
2012	439,504 (79%)	7,325
2013	440,301 (100%)	7,338
2014	432,500 (98%)	7,208
2015 [見込み] [Estimate]	435,500 (101%)	7,258

資料:ブラタク製糸株式会社

注:( )内は対前年比

[ ]内の見込みは2015年4月現在

Source: Fiação de Seda Brtac S.A

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of April 2015.

※「シルクレポート」の記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

**<http://www.silk-teikei.jp>**

シルクレポート 2015年9月号 NO.44 平成27年9月1日発行

編集 / 発行

(問い合わせ先)

**一般財団法人大日本蚕糸会  
蚕糸・絹業提携支援センター**

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-9-4 蚕糸会館6階

TEL : 03-3214-3500

FAX : 03-3214-3511

URL:<http://www.silk-teikei.jp>

製本 / 印刷

株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず